

群馬大学医学部

CAMPUS GUIDE 2017

医学科 ● School of Medicine

保健学科 ● School of Health Science

入学案内



Contents

目次

医学部長メッセージ	1
TOPICS 医学科	2
保健学科	4
医学科	
医学科長メッセージ	6
医学科研究室	7
医学科カリキュラム	12
保健学科	
保健学科長メッセージ	14
保健学科専攻構成	15
保健学科教員	16
保健学科カリキュラム	20
私たちの大学生活	22
卒業生からのメッセージ	28
クラブ・コミッティー	30
入学者受入方針	
オープンキャンパス	31
施設紹介	32
Question & Answer	34
インフォメーション	36

History of Gunma University Faculty of Medicine

沿革

- 昭和18年 4月 ● 前橋医学専門学校設置
- 昭和23年 2月 ● 前橋医科大学設置
- 昭和24年 5月 ● 群馬大学医学部となる
- 昭和30年 7月 ● 群馬大学大学院医学研究科(博士課程)設置
- 平成 8年10月 ● 群馬大学医学部保健学科設置
- 平成13年 4月 ● 大学院医学研究科を大学院医学系研究科に改称し、保健学専攻(修士課程)設置
- 平成15年 4月 ● 大学院医学系研究科医科学専攻に講座設置
同保健学専攻博士(後期)課程設置
- 平成19年 4月 ● 大学院医学系研究科生命医科学専攻(修士課程)設置
- 平成23年 4月 ● 大学院保健学研究科設置



群馬大学医学部長

峯岸 敬

前橋市の市街地にある群馬大学の昭和キャンパスには、医学部（医学科と保健学科）、大学院医学系研究科、大学院保健学研究科、医学部附属病院、生体調節研究所、重粒子線医学センターなどがあります。

群馬大学医学部は北関東における医学・保健学教育と研究の中心として、医学科では多くの医師、医学研究者、医療行政者などを育成し、保健学科では看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、細胞検査士、理学療法士、作業療法士などを育成してきました。医学部附属病院は、地域医療の中核として社会に貢献しています。重粒子線医学センターでは、日本の大学に最初に設置された世界最先端のがん治療装置を用いて重粒子線治療が行われています。

医学科は、生命や人体の構造と機能を追求し、疾病の本態を解明し、それを克服するための方策を探求するとともに、優れた人間性を持つ医師や最先端の医学研究者を養成することを主な目的としています。保健学科は、総合的で先進的な保健学教育・研究を展開することを通して、保健医療の専門職として確固たる倫理観と豊かな人間性を持ち、社会的使命を果たすことのできる医療人の育成を目的としています。

医学部では、入学試験と学生教育の改善に力を入れ、多様な学生を迎える体制を整えてきました。入学後は、早期から医療の実際に触れ、医療従事者となる上で必要な知識、技術、心構えを早くから学生自身が身を持って体験できるように配慮しています。また、医療は多くの職種の人たちのチームワークによって成り立っています。一部の教育・実習のプログラム、さらに時間外の運動クラブや文化クラブの活動は、医学科学生と保健学科学生が共同で取り組んでいます。

現在、医学部・大学院・医学部附属病院を中心として、学部・大学院教育や研究者・専門医療人養成のために次のような大型プログラムが進行しています。

1) がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「国際協力型がん臨床指導者養成拠点」、2) 科学技術人材育成費補助金 テニュアトラック普及・定着事業「若手先端科学研究者の研究環境改革」、3) 博士課程教育リーディングプログラム「重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム」、4) 基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成「卒前・卒後一貫 MD - PhD コース」

医学部では、アメリカ合衆国、モンゴル、台湾、インドネシア、タイなどの大学との国際交流にも力を入れています。学生の間には先進国や途上国の医療情勢を体験し、外国の医学系の知人と情報を交換し国際感覚を培うことは、将来の医師としての仕事にも有用で意義深いことです。

医学部学生は、様々な活動などを通して広い視野のもとに医学・医療を学び、人間性豊かな医師・医療人、また教育者・研究者に成長することが期待されています。

Topics

School of Medicine

医学科

人体、生命の神秘を追求し、疾病の本態を解明し、それを克服するための方策を探求するとともに、優れた医師、真摯な医学研究者を養成することを目的としています。

Topic 1

重粒子線治療

世界最先端のがん治療装置 <http://heavy-ion.showa.gunma-u.ac.jp/>

2010年3月に国内の大学では初めて群馬大学で始まり、国内外から大きな注目を集めている最先端の治療法が、がんを「切らずに治す」重粒子線治療です。

重粒子線治療の特徴は、①炭素イオン等を高速に加速して病巣を狙うため、がんに対する線量集中性が極めて優れていること、②一般に使われるX線やγ線に比べてがん細胞を殺傷する力が強いこと、③照射の精度が高く、がん細胞周囲の健常臓器の機能を温存できることなどが挙げられます。

ここ群馬大学で世界最先端のがん治療である重粒子線治療がスタートしたのは、放射線治療研究が全国でも屈指のレベルにあり人材が豊かだったことが大きな要因の一つです。

現在、日本原子力研究開発機構・高崎量子応用研究所、宇宙航空研究開発機構とも協力して、1mm程度の微小病変に対して高

精度照射を行う革新的な治療システムの研究開発を進めています。

同時に、米国のマサチューセッツ総合病院(ハーバード大学医学部の教育病院)やメイヨークリニック、ドイツ国立重イオン研究所と学術交流協定を結ぶなど国際的research拠点の形成にも努めています。また、国際原子力機関(IAEA)のアジア地域保健医療領域の事務局も設置されるなど、放射線治療のトップランナーとして国際貢献を推進しています。

さらに、群馬大学大学院医学系研究科では、文部科学省の「博士課程教育リーディングプログラム」に「重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム：平成23～29年度」が採択されました。本学位プログラムでは、各専門分野の領域を超えて活躍できる放射線腫瘍医、放射線生物学者、医学物理士、加速器物理学の専門家などの優れ



たグローバルリーダーを養成します。このために、重粒子線医学・生物学の基礎に加えて、重粒子線先端臨床研究や高度医療機器の開発・運用技術の開発研究を教育する医学・工学融合型のリーディングプログラム「重粒子線医工連携コース」を大学院に創設するなどの新しい試みを積極的に導入し、国際的な指導者となる優れた人材を養成しています。

Topic 2

入学定員増と地域医療枠

地域医療貢献を目指す

医学科は、多様な医師・医療関係者、医学研究者を育成するため、入学試験制度の改革を積極的に行ってきました。入学定員は平成21年度入試から3回増員され、現在は123名となっています(推薦入試35名、一般入試前期日程73名、第2年次編入学15名)。

平成21年度に創設された地域医療枠も、拡充されて18名になりました。地域医療枠は、群馬県と協力して、県の医療を担う医師を養成し、県内の医師不足解消に貢献することを目的としたものです。この制度では学生に月額15万円の修学資金が貸与され、卒業後、群馬大学医学部附属病院をはじめ群馬県内の特定病院において一定期間診療に従事することで修学資金の返還が免

除されます。その際に、リストアップされている特定病院の中から勤務する病院を選択できる特徴があります。また、返還免除に必要な診療従事期間を、出産・育児や県

外医学研修(海外留学を含む)によって中断することもできます。詳細については、学生募集要項の「群馬県緊急医師確保修学資金貸与制度について」をご覧ください。



Topic 3

チューター制度

入学から卒業まで、学業や学生生活をサポート



大学に入学すると、自分で考えて講義を受講し、自主的・主体的に学習することが求められます。高校生までの学びと異なる面もあり、学習をはじめとする環境の変化に戸惑うことも出てくると思います。

医学科ではチューター制度を取り入れ、入学者全員にチューターとして教授を指定しています。新入生3~4人につき1名の

チューターが配置され、学生の悩みや不安に対応し、安心して学生生活が送れるように入学から卒業まで一貫してきめ細かい指導を行っています。

また、学生相談担当教員やカウンセラー、健康支援総合センターでも相談を受け付け、充実した学生生活を送り、医師を目指すようにサポートしています。

Topic 4

未来医療研究人材養成拠点形成事業
「地域オープンイノベーションR&D人材養成」事業

医療イノベーションを実現する高度専門医師、研究者、支援人材の養成 <http://mirai.showa.gunma-u.ac.jp/>

よりよい医療を提供することは医師の責務です。そのためには、より効果的で、さらに安全、しかもより負担の少ない医療を開発していく必要があります。本事業は平成25年度に採択・開始された文部科学省「未来医療研究人材養成拠点事業」のひとつで、画期的な医療、医薬、医療機器の開発とこれに関わる高度専門医師、研究者、R&Dマネジメント等の研究支援の専門的人材の養成を目的とする群馬大学独自の教育プロジェクトです。国内外の注目を集めつつ、医学部卒業後に進学する大学院医学系研究

科には、特別コース「医療開発医科学コース」が設置され、医学部では、臨床開発研究の導入教育がすでに開始されています。近年、ゲノム医学の急速な進化、それに伴う技術革新により、医療開発研究は質量ともにかつてない広がりを見せています。未来へ向け、さらに幅広く活躍する有能な医師、次世代型医師の育成をめざし、国際的な連携・協力体制を構築しつつ、医療イノ

ベーションを実現、リードする専門的人材の養成が進められています。



Topic 5

卒前・卒後一貫MD-PhDコース

基礎医学研究者・教育者、法医解剖医養成 <http://md-phd.showa.gunma-u.ac.jp/>

医師には臨床医以外に、研究、法医解剖など臨床に直接関わらない医師がいます。また、医学教育や、地域の医療行政に携わる医師も必要です。しかし、医学科卒業生の多くは臨床医を希望し、これらの基礎医学分野に進む医師は減少傾向です。そこで群馬大学では、入学直後から基礎研究の体験実習や基礎医学研究室配属を行い、基礎医学への興味を持たせるような教育をおこなっています。また、MD-PhDコース(医師と医学博士を並行して目指すコース)を設置し、希望する研究室での研究に加え大学院講義の一部も受講可能としています。現在、90名以上の学生がMD-PhDコースを選択し、忙しい講義の合間を縫って各研究室で研究活動に励んでいます。

これらの試みに加え、平成24年度より「卒前・卒後一貫MD-PhDコース」を整備しました。一貫コース希望者は、大学院入学試験の一部を受験し、合格すればプレ履修生となります。学部学生時代に受講した大学院講義・演習は卒後大学院に入学した際、正規の大学院単位として認定します。また、卒後は臨床研修と並行して基礎系研究室にて研究を継続し、学位取得後に大学の教員として採用する予定です。法医解剖医志望者は認定医資格取得

を目指すことができます。本プログラムを通じ、基礎研究医や法医解剖医を目指す学生の育成を図っています。



Topics

School of Health Science

保健学科

群馬大学医学部は、発展途上の分野にも積極的に取り組み、深く掘り下げるとともにより実践的なプログラムを行っています。

Topic 1

多職種連携教育

WHO協力センターの指定を受けた群馬大学で、さらに教育の充実を目指す

保健学科は、看護学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学の4専攻で構成されています。全人的医療を担う高度医療人の養成を教育理念の基本におき、各専攻の専門教育とともに、チーム医療教育/多職種連携教育に力を注いできました。「チームワーク実習」はこの中核となる科目で、学内外約20施設の協力を得て保健学科と医学科の学生が参加して実習が行われます。

多職種連携教育ではWHO（世界保健機関）をはじめ国内外の機関や大学とも連携して学生教育の向上を目指してきましたが、こ

れまでの実績が認められ、2013年には群馬大学がWHO協力センターに指定されました。実行組織となる「多職種連携教育研究研修センター」が開設され、多職種連携教育の研究と研修を行っています。WHOとの連携を通して学生教育のさらなる向上を目指しています。

2010年には、多職種連携教育を学ぶ学生組織としてSIPECが設立され、学内での勉強会や講演会への参加などの活動の他、WHO本部や西太平洋事務局への訪問、学会や講演会での発表などを行なっています。

2016年9月にはオックスフォードで開催される国際学会ATBH VIIIでSIPECの学生がこれまでの学習成果を発表します。これらの活動を通して、全人的医療を担い国際的に活躍できる医療人を育成しています。



Topic 2

専門職養成プログラムについて(大学院)

専門看護師(Certified Nurse Specialist)

臨床研究コーディネーター (Clinical Research Coordinator)

高度化・専門化が進む医療現場において、質の高い看護ケアを効率よく提供する専門看護師(CNS)の資格認定制度があり、資格をもつ専門看護師が病院などで活躍しています。CNSになるには特定の専門看護分野の実務経験と大学院博士前期課程での学修が必要です。本学では、がん看護・慢性看護・老年看護と母性看護分野の専門看護師を養成する教育課程が認可され、CNSコースとして大学院教育を行っています。さらに、がん看護・老年看護分野は、専門看護師の発展型であるケアとキュアの融合を目指す高度実践専門看護師教育課程(38単位)として新たに認可され教育を開始しました。CNSコース修了生は日本看護協会による資格認定審査に合格してCNSの資格を得ることができます。平成28年3月までに本学の修了生27名(がん看護19名、老年看護5名、慢性疾患看護3名)が資格認定審査に合格しました。がん看護コースはがんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「国際協

力型がん臨床指導者養成拠点」として行っています。

新しい治療法や予防法を確立するための科学的根拠は、臨床試験をはじめとした臨床研究から得られます。臨床研究の中核拠点となっている世界の研究医療機関では、臨床研究コーディネーター(CRC)やデータマネージャー(DM)と呼ばれる専門職が活躍して、臨床研究や疫学研究が進められています。質の高い研究を行うには、これら専門職のなかでも高度な知識やスキルを身につけた人材を欠かすことができません。しかし、わが国ではこれらの指導的人材を育てられる教育機関はごくわずかです。群馬大学大学院保健学研究科では、平成13年の大学院設置当初から、臨床研究専門職の指導者養成のための講義や演習を行ってきました。また、実践的な演習を含む「CRC管理者養成コース」を開講しています。コース履修者には、「臨床研究プロフェッ

ショナル(臨プロ)」の称号が与えられます。

平成28年3月までに、6名が修了し、称号が授与されました。



Topic 3 地域保健学リーダー

地域活動と教育との一体化を目指した大学院教育プログラム

大学院保健学研究科では設置当初より昼夜開講等社会人学生に配慮した教育を実施してきました。その結果、現在、博士前期課程の約6割、後期課程の約8割が主に保健医療機関で働く社会人学生という特徴があります。そこで、これまでの教育を発展させ、さらなる地域活動と教育との一体化を目指した新しい大学院教育プログラム「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」を構築し、平成19年から3年間文部科学省大学院教育改革支援プログラム(大学院GP)の支援を受け

ました。平成22年度以降も教育プログラムとして継続しています。具体的には、地域の保健医療従事者を社会人学生として受け入れ、所属機関における研究課題を、所属機関と大学との共同で「地域保健学研究プロジェクト」として遂行します。学生はこの課程を通して、研究能力やリーダーとしての能力を体験的に修得し、大学院修了後は「地域保健学リーダー」として、地域保健医療活動の推進や、大学との協働の促進における役割を果たすことが期待されます。

平成27年度までに35名の学生が本プロジェクトの研究遂行者として認定を受け、地域社会で活躍しています。



Topic 4 群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー

文部科学省GP(特色ある取組)課題解決型高度医療人材養成プログラム

保健学科看護学専攻は、平成26年度より文部科学省より補助金を受け【群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー事業】に取り組んでいます。これは、地域での暮らしや看取りまでを見据えた看護が提供できる「在宅ケアマインド」をもった看護師養成を強化するものです。

わが国は、世界に類をみないスピードで高齢化が進み、世界一の長寿国となりまし

た。超高齢少子多死社会に対応するため、病院中心から在宅中心の医療やケアへの移行が推進されています。住民が住み慣れた地域や自宅で、最期まで自分らしい生活が送れるように支援ができる人材が求められています。

全国的に先駆的な取り組みである本事業は、これらのニーズに合致したものであり、大学と県内の医療保健福祉の関係機関・多職種が一丸と

なって取り組みます。主な取り組み内容は、①1年次から「在宅ケアマインド」を養う学部教育改革、②大学院に「地域完結型看護リーダー養成コース」を開設、③実習指導者のための履修証明プログラム「地域完結型看護実践指導者養成プログラム」の開設です。これら卒前から卒後までの一貫した教育により、「在宅ケアマインド」をもって、地域のあらゆる場で切れ目のないケアを提供できる看護師養成をめざします。



Topic 5 国際交流

国際感覚の向上と国際社会への貢献

保健学科は国際社会で活躍できる人材の育成を目指し、教員及び学生の国際交流を行うとともに、国際社会に貢献するために国際協力を行っています。ワシントン大学、ピュージェット・サウンド大学など米国の大学や、ニカラグア国立自治大学マナグア校、モンゴル国立医科学大学、タイ王国ランシット大学及び大韓民国仁済大学とも交流し、相互の訪問を行っています。学生は、留学生と一緒に

学ぶ中で国際感覚や、国際社会で必要とされるコミュニケーション能力を養うとともに、留学生にとっては将来の母国の発展に役立つ知識や技術を得る機会となります。在学中から積極的に開発途上国を訪れ、卒業数年後に国際協力を行う学生も多く存在します。また、モンゴルでの理学療法士養成のための教育支援など大学が行う国際協力として注目され、高く評価されています。このように、保健学

科全体で国際交流・国際協力に取り組んでいます。



School of Medicine



Message

群馬大学医学部医学科長

峯岸 敬

入学前に養ってきた勉強する習慣や、その知識は貴重なものです。一方その良い習慣も知識も継続して努力しなければ、簡単に失うことも事実です。

医学部での勉強においても知識の集積を求められることが多いので入学前の習慣を生かして、試験対策の勉強をしてください。それはやはり進級や国家試験に合格するために求められます。しかし教科書を丸暗記している勉強は医学の進歩についていくには適切ではありません。教科書はその医学の進歩とともに書き換えられています。毎年新しい発見が積み重なりその新しい発見や、メカニズムの理解をし続ける必要があります。このために、この入学を機に、今までの知識をさらに広げ、基礎を確かなものにして、英語に親しみ、世界的レベルでの医学を意識して、科学的に医学を考える習慣をつけてもらいたいと思います。医療の仕事は終了がありません。その医学の進歩を持続的に、理解していく姿勢が必要です。

医学教育においても大きな変化があり、学生の間には医療に参加するため臨床実習の時間が増えています。6年間の医学生の間最後の2年間はStudent Doctorとして医療チームに参加し、医療の現場で学びます。

医師には、手技や知識以外にも、患者さんの思いを引き出すような会話の技術や雰囲気を持つことが必要とされ、患者さんの健康と権利を守る義務もあります。医師としての態度を身に付けることも最初からできることではありません。学生の間から意識して生活しましょう。

課外活動を通じて、縦と横の人間関係の形成にも時間をかけて、学生生活を楽しみ、将来も付き合い合える友人を作ることも大切です。

最後に、現在の初心を忘れずに、科学的に考えることに積極的な自分と患者さんの立場に立って思いを巡らせる自分を先輩や仲間とともに身に付けてください。

Laboratory

School of Medicine

医学科研究室

日進月歩の医療界において、
研究活動と臨床は表裏一体。
常に先端研究への取り組みが行われています。

機能形態学 Anatomy



筋肉はヒトが生きていくうえでなくてはならない器官です。その筋肉が正常に働く上で必要となるタンパクについて調べるとともに、その同じタンパクが体の他の場所でどのような役割を担っているのかを研究しています。その他には新たな医学教育のあり方についての試みも行っています。

生体構造学 Anatomy and Cell Biology



電子顕微鏡やレーザー顕微鏡を用いる形態学的方法と、分子細胞生物学的な方法を用いて、臓器や細胞の構造と機能を解析しています。とくに細胞膜水チャンネルに注目し、生体内での機能や調節機構について研究をしています。

分子細胞生物学 Molecular and Cellular Neurobiology



神経系細胞（ニューロンとグリア）の誕生から死までを分子細胞生物学的手法で研究しています。特にグリア細胞の発生・分化・生存調節機構と生理機能、神経系細胞と血管系細胞の相互作用を明らかにすることを目指しています。得られた知見を脳・脊髄の再生医学に応用することが究極の目的です。

生化学 Biochemistry



細胞膜はリン脂質という脂（あぶら）からできていますが、刺激を受けるとその情報を受けてリン脂質が分解を受けて次の情報を伝える物質に変換されます。当分野では、この脂質の代謝や情報伝達の仕組みを研究しています。

応用生理学 Integrative Physiology



ホルモンなどの生理活性物質が細胞機能をどのように調節するのか、また、環境中の化学物質がその作用をどのように修飾するのか、培養細胞や遺伝子改変動物を用いて研究しています。留学生が多いことも本研究室の特徴です。

脳神経再生医学 Neurophysiology and Neural Repair



当分野では、難病に指定されている神経変性疾患（特に脊髄小脳変性症）の発症メカニズムの解明や治療法開発をテーマとしています。遺伝子治療や幹細胞治療などの先端研究技術を積極的に取り入れ、電気生理学と組み合わせて世界トップレベルの研究を行っています。

神経薬理学 Neurobiology and Behavior



脳機能を担う神経回路の接合点であるシナプスの機能解明を目指し、ライブセルイメージング、細胞培養、生化学、免疫組織化学、超解像度顕微鏡、遺伝子改変動物の作成とその行動観察などの方法を用いて、分子から行動まで幅広いレベルで解析を進めています。

遺伝発達行動学 Genetic and Behavioral Neuroscience



遺伝発達行動学分野では、遺伝に関する知識が蓄積されているマウスやラットを利用して脳の機能に関する研究を行っています。これらの研究から、病気の発症機序の解明や治療法の開発に貢献しようとしています。

病態腫瘍薬理学 Molecular Pharmacology and Oncology



がんの制圧は世界共通の悲願であり、現代医学の最大の課題のひとつです。がんの本態・病態の解明を通じ、新規シーズの同定から臨床展開翻訳研究（トランスレーショナル・リサーチ）までの創薬研究、作用機序・生体応答の解明（腫瘍薬理学）を含めた育薬研究など、幅広い相の研究を展開しています。

細菌学 Bacteriology



細菌がヒトに感染症をおこすための種々の性質（形質）と関連する遺伝現象を分子生物学的に解析しています。特に薬剤耐性菌、日和見感染菌とヒト及び環境との関わりを包括的に研究しています。

Laboratory

医学科研究室

国際寄生虫病学 Parasitology



世界の3/4を超える人々が何らかの寄生虫病にさらされています。ポグレス時代の現在、日本で寄生虫病に遭遇する機会は今後ますます増加するでしょう。我々は国際協力も視野に入れ、寄生虫病、特にマラリアを制圧するための戦略について、また寄生虫病とアレルギーとの関係について、免疫学的に研究しています。

公衆衛生学 Public Health



公衆衛生学分野は、社会環境の中で健康を支える要因を増やし、阻害する要因を制限することによって、健康に暮らせる社会環境の構築を目指しています。具体的な研究内容は、微量元素セレンの生体影響の解明と疾病予防・がん治療への応用、うつスクリーニング調査票の開発と自殺予防対策、インドネシアと日本の医療制度の比較などです。

法医学 Legal Medicine



医学の知識を法律上の問題解決に応用する科学です。事件解決のため、死体を解剖して死因を解明し、血液型やDNA型を検査して親子関係を明らかにするなど、社会問題を医学的に解決する研究に取り組んでいます。

医学哲学・倫理学 Medical Philosophy and Ethics



医学・医療の目的って何だろう。健康と病気の境目はどこにあるのだろうか。医療者は、患者さんの人生にどこまで踏み込んでよいのだろうか。何が患者さんの最善の利益なのか、それを決めるのは一体誰なのか。どんな医療がよい医療なのか。こんなことを考え抜こうとしています。

循環器内科学 Cardiovascular Medicine



循環器系は生体の生理機能の主軸を構成し、恒常性を維持するため多様な適応機能をもっています。循環器内科は、この恒常性が破綻する病態を生理学、生化学あるいは薬理学など多面的な方向からアプローチする分野です。心筋梗塞、心不全、不整脈など生命に直結する疾患の急性期治療から慢性期治療、さらに予防医学まで幅広い領域の臨床、研究および教育を行っています。

呼吸器・アレルギー内科学 Respiratory Medicine



かつてない高齢化社会を迎え、呼吸器・アレルギー疾患に対する研究の必要性が増えています。肺がんなどの呼吸器悪性腫瘍、気管支喘息、COPD、肺線維症、呼吸器感染症などの難治病態を解明するために臨床的および基礎的研究に取り組んでいます。また、呼吸器疾患の新しい治療法の開発を目指した研究を行っています。

消化器・肝臓内科学 Gastroenterology and Hepatology



消化管（胃・十二指腸・小腸・大腸）、肝臓、胆嚢、膵臓の病気の教育・治療・研究を担当しています。消化管がん・胆石・膵腫瘍の内視鏡を用いた診断・治療、食道運動障害を含む消化管運動障害、ウイルス性肝炎や肝がん、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎など）の治療・研究を行っています。国際交流・国際共同研究も行っています。

内分泌代謝内科学 Endocrinology and Metabolism



糖尿病、肥満、脂質代謝異常などの生活習慣病や甲状腺、副腎、下垂体など各種内分泌疾患が私たちの担当する診療と研究分野です。患者さんに寄り添いながらより適切な治療を提供できる内分泌・糖尿病専門医を育成すること、臨床疫学研究と先進的な基礎研究をともに進展させ内分泌代謝疾患における病態の分子基盤解明と新規診断・治療法を開発することを目標に日々努力しています。

腎臓・リウマチ内科学 Nephrology and Rheumatology



当教室では蛋白尿出現や腎機能悪化のメカニズムについて、患者さんの検体（血液、尿、腎組織など）、遺伝子改変動物、培養細胞を使用して多面的に研究しています。また腎臓の再生医療の基礎的研究や、免疫学的視点より腎臓病、リウマチ膠原病の病態解明や治療法開発に関する研究に取り組んでいます。

血液内科学 Hematology



内科学は臨床医学の根幹を成す学問体系です。血液内科学は血液細胞の発生や、白血病などの血液腫瘍、血液凝固や感染症などを研究する分野です。がん治療の分野では最も進歩の速い分野で、造血幹細胞移植など最先端の治療を行いながら研究を進めています。患者さんの期待と信頼に応えられる質の高い医療と研究を提供できるカリキュラムを編成し、一つの臓器にとらわれることなく体全体を診ることのできる臨床医、研究医を育成することを目標としています。

脳神経内科学 Neurology



高齢化社会を迎えて患者数増加が著しいアルツハイマー病や脳卒中、脊髄小脳変性症や筋萎縮性側索硬化症などの神経難病、自己免疫性神経疾患、神経系感染症、筋疾患などの診療と教育を担当し、研究面では、アルツハイマー病の早期診断法の開発、脊髄小脳変性症と筋萎縮性側索硬化症の病態解析と治療開発研究を行っています。

循環器外科学 Cardiovascular Surgery



循環器外科では人工弁置換術や冠動脈バイパス術などの心臓手術や、胸部大動脈から腹部大動脈、末梢血管まで含めた血管手術を行っています。また動脈瘤に対するステントグラフト内挿術などの低侵襲手術や救急対応、がんの手術で血管合併切除の際に他診療科と協力して血行再建など、幅広い分野に取り組んでいます。

呼吸器外科学 General Thoracic Surgery



呼吸器外科は、食道、心臓及び乳腺の疾患を除いた幅広い胸部疾患を対象に外科的治療を行う分野です。治療の中心は肺がん手術ですが、腫瘍の根治性と患者さんに対する低侵襲性を併せ持った手術を行っています。研究面では、肺がんや縦隔腫瘍の発生や進展のメカニズム解明の研究を分子生物学的手法を用いて活動的に行っています。

消化管外科学 Gastroenterological Surgery



食道から直腸までの広範囲な消化管疾患を対象とし、それらに関する臨床および研究を行っています。優れた診断法や治療法の開発を目指した研究、また腫瘍が発生から増殖・浸潤そして転移をきたす各段階において関連するさまざまな要因・メカニズムを解明し新たな治療へと展開させる研究を行っています。

乳腺・内分泌外科学 Breast and Endocrine Surgery



女性で最も罹患率が高い乳がん（悪性新生物）および内分泌疾患（甲状腺、上皮小体）の診断と治療を行っています。基礎研究としては、乳がん内分泌療法耐性メカニズムの解明、乳がん治療薬の感受性予測評価としてのバイオマーカー同定、乳がん予後因子の網羅的解析、などに取り組んでいます。

肝胆膵外科学 Hepatobiliary and Pancreatic Surgery



肝胆膵外科は新設された講座です。いま、私達は「肝胆膵疾患を抱えた患者さんおよび家族の人生をより良いものするために、最良の医療を提供します。一人ひとりの患者さんを丁寧に診療し、最善と思われる治療方針を提示し、その実践に全力を尽くします。」という理念に基づき、日々努力を続けています。難治がんに対する新たな治療戦略開発の研究プロジェクトも開始されています。いっしょに難治がん治療成績向上のプロジェクトの仲間に加わりませんか？

小児外科学 Pediatric Surgery



新生児から成人移行期までの外科治療を必要とする疾患を担当し、消化器・呼吸器・泌尿器・体表と全ての臓器を対象としています。子供達の成長・発達に障害を残さないよう心掛け、小児の病態生理に関する研究、先天異常に関する研究、小児がんに関する研究、新しい低侵襲治療や器具の開発などを行なっています。

腫瘍放射線学 Radiation Oncology



“切らずに治すがん治療”を目指し、重粒子線治療を含む世界トップレベルの放射線治療から、がん治療に関する分子生物学的な基礎研究まで、多様性に富んだ教育・人材育成を行っています。また、国際原子力機関への研究協力など国際活動も積極的に行っております。

放射線診断核医学 Diagnostic Radiology and Nuclear Medicine



画像診断は、現代医学に欠かせないものとなっています。エックス線発見、ラジウム発見から100年余り。CT、MRI、US、PET、SPECTなどの画像診断やIVR・核医学治療などの治療法も発達しています。群馬大学では古くからその臨床応用と開発に力を入れています。

神経精神医学 Psychiatry and Neuroscience



精神の病気には「こころの病」と「脳の疾患」の側面があります。こころと脳の両方を対象に、脳科学の最新の知識と技術も導入して診療や研究を行っています。精神医療への客観的指標の試みとして、光トポグラフィー検査を用いた鑑別診断補助も行っていきます。

Laboratory

医学科研究室

麻酔神経科学 Anesthesiology



麻酔科の主な仕事は手術を受ける患者さんの麻酔と痛みの治療です。安全に麻酔し、大きな手術を受けても苦痛を感じない治療技術は、痛みに苦しむがん患者さんなどの治療（ペインクリニック）にも応用されています。

救急医学 Emergency Medicine



医学部附属病院では救命救急センターとして、心肺停止、外傷、心臓血管疾患、脳血管障害、熱傷、中毒、感染症等のあらゆる病態に対して、軽症から重症病態まで幅広く対応する全次型救急医療を行っています。災害医療にも積極的に取り組み、2011年の東日本大震災や2016年の熊本大震災への災害医療チーム派遣の実績があります。また、院内救命講習会やICLSコースを開催する等 off-the-job training にも力を入れています。

総合医療学 General Practice Medicine



東洋医学と西洋医学の利点を生かした新しい診療体系を作り出そうとしています。研究面では、現在社会の重要課題である老年医療を主要なテーマにしています。これらを通して、社会に貢献する総合医療学を目指しています。

リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine



リハ医学は障害の診断と治療を行う臨床医学です。幅広い専門分野があり、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカーなどが協力して診療、研究、教育を行います。いろいろな測定機、解析機器を用いて診断法の開発、治療への応用を研究します。

臨床検査医学 Clinical Laboratory Medicine



病気の予防、診断や治療を行ううえで、血液、尿などの検体検査および心電図、肺機能や超音波検査などの生理機能検査が不可欠となっています。当分野では、正確な検査診断法の確立とともに新しい検査法の開発と医療への応用に向けて幅広い研究を推進しています。

病態病理学 Human Pathology



病理学はヒトの病気の成り立ちを研究する学問領域です。その一方で臨床診療科としての側面も持ち、病理診断は数ある疾病診断手法の中で最も確かなエビデンスを提供します。研究面では脳腫瘍などの中枢神経系を侵す疾患の研究に力を入れており、教育面では日頃から学生さんに開かれた研究室づくりを心掛けています。

病理診断学 Diagnostic Pathology



先進的ながんの病理診断、治療の向上を目指し、患者さんのためになる臨床研究を行っています。その研究分野は、乳がん、前立腺がん、消化器、婦人科領域と広範囲にわたっています。

小児科学 Pediatrics



小児科は患者さん・家族と一緒に悩み、学び、そして共に成長する分野です。病気を治すことのみではなく、子どもたちの未来を創ることが私たち小児科の使命です。そのため、単に病気の知識だけではなく、豊かな人間性と倫理性を兼ね備えた全人的な医療を目指しています。

産科婦人科学 Obstetrics and Gynecology



診療科は産科・婦人科で、周産期、腫瘍、生殖の3部門を中心にその専門性を重視して診療体制を整えています。生殖班は不妊治療・体外受精、周産期班は新生児の予後を重視した周産期管理、腫瘍班は最新の診断技術を取り入れ、それぞれ最適な治療を施行するための研究を推進しています。

泌尿器科学 Urology



泌尿器科は尿路（腎臓・尿管・膀胱・尿道）と男性生殖器を扱います。診断から治療（手術療法や薬物治療全般）をすべての分野について行います。特に、腎臓移植や前立腺がんなど、社会的なニーズの高い分野の基礎研究を積極的に行っています。

脳神経外科学 Neurosurgery



脳神経外科は、脳や神経の病気を外科的に治療する分野です。脳腫瘍、脳卒中、脳動脈瘤などの手術には、脳の機能を守るため、マイクロサージャリーと呼ばれる顕微鏡を用いた精密な手術を行っています。

眼科学 Ophthalmology



網膜手術では国内トップの業績を持ちます。網膜硝子体の臨床研究では国際的に高い評価を得ています。網膜脈絡膜の微小循環、糖尿病網膜症の治療、加齢黄斑変性の病態を解明し、新規治療の開発を行っています。レーザー光凝固や眼底疾患学の専門書を出版しています。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 Otolaryngology-Head and Neck Surgery



我々の教室では、感覚器（聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚）と運動機能（呼吸、発声、咀嚼、嚥下）を含めた頭頸部領域の疾患について研究し、臨床に生かせるよう努力を続けています。主に頭頸部癌における腫瘍免疫学と癌の細胞生物学、平衡覚の神経生理学と臨床応用の2つのテーマで研究を行っています。

皮膚科学 Dermatology



皮膚疾患には、皮膚固有のもの、全身性疾患に伴ってあらわれるものがあり、その多彩な皮膚病変を間違いなく診断・治療できる医師、さらに研究者の育成を推進しています。研究課題には、皮膚の老化と変性、膠原病、免疫アレルギー、がんなどがあります。

整形外科 Orthopaedic Surgery



運動器（筋肉、骨、関節、靭帯、脊椎、手足の神経や血管など）の病気やケガを治療しています。特に、五十肩、変形性関節症、脊椎症、骨腫瘍などの病態や治療法の研究、さらにはスポーツ医学にも力を入れています。

臨床薬理学 Clinical Pharmacology



患者個々に薬に対する反応は異なります。当研究室では、ある薬が効きにくい人、または容易に薬物血中濃度が中毒域に達してしまう人などの、いわゆる「薬物治療抵抗因子」について検討することによって、有効で副作用の少ない薬物治療法の構築を目指し、医療に貢献しています。

口腔顎顔面外科学・形成外科学 Oral and Maxillofacial Surgery - Plastic Surgery



口腔を中心に歯、顎骨とその隣接組織の疾患を扱う医学分野です。特に口腔がんの外科的治療法と鏡視下微小血管吻合技術を用いた遊離組織移植（マイクロバスキュラーサージャリー）による口腔がん切除後の機能的、整容的再建を臨床、研究の中心としています。さらに、顎口腔領域のさまざまな疾患の治療法や創傷治癒機序などを上皮の細胞代謝の面から研究しています。



臨床試験学（協力分野） Clinical Trials and Regulatory Science



新薬の開発や高難度新規医療技術の導入には、臨床試験によるエビデンスの確立が欠かせません。臨床試験の倫理、方法論、支援のあり方は急速に進化しています。医療の最先端を見つめながら、臨床研究コーディネーターやデータ管理者、生物統計家などの新しい人材育成に注力し、幅広い臨床と研究の活動を展開しています。

情報医療学（協力分野） Medical Informatics



現代の医療・保健・福祉において適切なサービスを提供するためには、医療システム全体に情報技術を適用し、情報の標準化と部門間の連携を保ち、運用を行う必要があります。当分野では、医療管理学や情報医療学に関する基礎知識を獲得するとともに、診療情報や医療情報の取り扱いに関する基礎的素養を与えることを目的に研究を進めています。

医学科カリキュラム

1年次・2年次

教養教育・専門前教育

医師として基本的な素養と人間性を磨く



医師には科学者としての素養とともに、人と社会を理解する文化的な素養が求められます。事実を客観的に捉えて分析し、既知の部分と未知の部分をつまらせた上で、問題解決の道を探求する科学者としての態度が必要となることはいまでもありません。一方、臨床の現場での問題解決では、前もって用意されている正解があるわけではありません。一人一人の患者さんが満足できる医療を提供するためには、病気を抱えた人の気持ち、生活する環境や社会的背景までも細やかに理解する態度が不可欠です。このような素養を身に付けるには、人類がこれまで築き上げてきた種々の学問(文化)を教養科目や入学早期の体験実習によって学ぶとともに、異なった価値観や人格をもつ人々と積極的に交わることによって人間性を磨くことが求められます。

2年次・3年次・4年次

生命医学・応用医学

ヒトと病気を理解し、
医療人となるうえでの基礎を築く

2年次から専門科目が開始されます。病気を理解するために、まず正常な人体の構造と機能を学びます。3年次から、臨床の現場で必要とされる医学医療の知識・技能・態度について講義・TBL(チーム基盤型学習)・実習を通して学びます。技能の修練にはシミュレーション教育を取り入れており、学生は人体模型を用いて聴診などの基本技能の習得に励みます。また、医の倫理、医療安全、チーム医療をしっかりと学べるよう、充実した教育体制を整えています。さらに医学研究に興味のある学生は卒前・卒後一貫型MD-PhDコースを選択して研究能力を磨くことができます。専門科目主体の時期になると、教養科目主体の頃に比べて学生生活は大変忙しくなります。気持ちを切り替え、様々な課題に積極的に取り組む姿勢で専門教育に臨んでください。



医の科学 (Science)、倫理 (Ethics)、技能 (Skill) の探求とそれらの統合による医学の研究と教育の推進並びに医学と医療をリードする人材の育成を目指しています。

4年次・5年次・6年次

臨床実習

医師となるうえで必要な
総合的診療能力を身につける

これまでに学んだ知識・技能・態度について、全国共通試験 (CBT、OSCE) に合格した学生には、臨床実習を行うための Student Doctor の資格が与えられます。

臨床実習では附属病院及び地域の基幹病院や診療所を含む医療施設の協力の下、診療参加型実習の拡充を図っています。診療参加型実習の中で学生はチームの一員として診療に参加し、スタッフや患者さんのご協力のもと、指導医から診療の基礎を学びます。近年は臨床実習にもシミュレーション教育を積極的に取り入れ、臨床の基本となる手技を確実に修得できる環境を整えています。

臨床実習を修了し、筆記試験と実技試験 (臨床実習終了時 OSCE) の両方に合格すると卒業資格および医師国家試験の受験資格を得ることができます。

国家試験の合格は医師としてのスタートラインに立てたことを意味するに過ぎません。生涯を通じて学び、社会に貢献する医師、教育者、医療行政担当者になって欲しいと思います。



教育の特徴 ①

グローバルな視点を持ち、
国際的に活躍する人材の育成に
取り組んでいます。



1年次から、国際交流協定を結んでいる各国の大学へ語学留学する機会があります。又、医学研究法を学ぶ基礎医学実習では海外の研究室で実習を行うことができます。高学年ではインドネシア、コロンビア、ドイツ等海外の医療現場で実習することも可能です。毎年約20人の医学生が海外経験を積み、国際的な視野を養っています。

教育の特徴 ②

群馬県内の医療施設と連携し、
6年間の教育を支えます。

初年度から早期体験実習を導入しています。1年次では附属病院、2年次では県内の医療施設において、介護、福祉、診療におよぶ実習を幅広く履修します。4年次には保健学科学生と合同で実施するチームワーク実習で多職種連携について学びます。Student Doctorとしての臨床実習では、附属病院および地域の基幹病院や診療所を含む医療施設の協力の下、診療参加型実習の拡充を図り、地域の特性に応じた医療について学ぶ機会を提供しています。さらに卒業後には、新専門医制度にも対応した研修が受けられるよう、群馬県および県下の病院が一丸となって専門医取得までサポートする体制を整えており、安心して医師としてのキャリアアップが可能です。

医学医療
概論実習

チーム医療
実習

チームワーク
実習

臨床実習
(必修)

臨床実習
(選択)

臨床研修
~専門医取得

School of Health Science



Message

群馬大学医学部保健学科長

村上 博和

少子高齢化社会となった我が国においては、社会構造や生活習慣の変化に伴い、疾病・障害構造が大きく変化するとともに、介護問題をはじめ新たな保健医療的問題が多数生じています。国民の要望も多様化し、健康志向が高まり、生活の質の向上や健康寿命の延長が求められています。

しかし、我が国では医師、看護師をはじめとした医療人不足と保健・医療の地域格差が顕著となっています。一方、財政上人員を増やすことには制約があるため、保健医療人の資質を高める必要があります。また発展途上国では現場の保健医療人のみならず、教育者が不足しています。実は、我が国においても保健学教員が不足しています。よって、保健学マインドをしっかりと持った保健学教育者の養成も急務です。このような社会的要請に応えるには、学部における高度な知識と技術を持った医療専門職の養成に加え、大学院における教育・研究を充実させ保健学各領域における研究者と教育者の養成が必要です。

そこで、保健学科は、保健学教育と研究の充実に向けて様々な教育プロジェクトを立ち上げてきました。特に、保健学科設置以来継続していたチーム医療教育をさらに発展させるため、チーム医療教育の国内ネットワークJapan Interprofessional Working and Education Networkを構築しました。この活動が認められ、平成25年にはWHO Collaborating Centerに指定されました。保健人材育成分野では群馬大学が国内初です。

また、平成26年に文部科学省により行われた『ミッションの再定義』で、『群馬大学の理念等に基づき、「全人的医療」と「チーム医療」をキーワードに、確固とした倫理観と豊かな人間性をもち、高度な技術と知識を備え、チーム医療のリーダーとなる人材を育成する。医療系の国立大学として充実した研究環境を活かし、保健学研究を推進する研究者や教育者の育成を積極的に推進する。』ことが認められました。この評価は、保健学研究を推進する大学として認められたものです。

高度保健医療専門職や保健学研究者・教育者を目指す学生さん、是非群馬大学と一緒に勉強しましょう。



School of Health Science

保健学科

保健学科は総合的で先進的な保健学教育・研究を展開し、保健医療の専門職として、確固たる倫理観と豊かな人間性を持ち、社会的使命を果たすことのできる人材を育成します。

専攻構成

Fundamental Nursing



- 看護学
- 基礎看護学

看護学の入門及び健康で自立した生活を支える援助法に関する知識・技術と看護管理について学習する分野です。より積極的に有効な看護技法の研究開発を行い、教育—臨床実践の連携を目指しています。

Clinical Nursing



- 看護学
- 臨床看護学

成人期・老年期にある人々の健康増進、疾病・障害、終末期の看護について知識と技術を学習します。生活習慣病、がん看護、高齢者看護について研究を行っています。また、人々の心の健康を守る看護について教育・研究に取り組んでいます。

Maternal and Child Health Nursing and Midwifery



- 看護学
- 母子看護学

母性の発達、マタニティサイクル、出産の援助（助産）と母親支援について教育・研究に取り組んでいます。また、小児と家族の多様な健康ニーズに対応できるよう、多職種と連携を図った看護支援の教育・研究に取り組んでいます。

Community Health Nursing



- 看護学
- 地域看護学

国内での地域住民の健康増進や疾病予防に関する様々な保健活動、在宅で療養する人々や家族への看護支援、在日外国人医療及び国外での看護活動や国際看護協力などについての教育・研究に取り組んでいます。

Basic Laboratory Sciences



- 検査技術科学
- 基礎検査学

生物学、化学、物理学などの教養科目の知識を基に、臨床検査学の基礎を習得するための分野です。内容は、生化学、臨床化学、基礎生理学、免疫学、遺伝子学の教育と研究を行っています。

Clinical Laboratory Sciences



- 検査技術科学
- 応用検査学

基礎検査学で学んだ知識や技術を発展させ、臨床検査に応用する分野です。内容は、臨床生理学、微生物学、医動物学、血液検査学、病理組織学、細胞診断学の教育と研究を行っています。

Basic Physical Therapy



- 理学療法学
- 基礎理学療法学

主に神経疾患、呼吸器疾患に対する理学療法と動作解析装置などを用いた運動制御について研究しています。また、認知症のリハビリテーションにも積極的に取り組んでいます。

Clinical Physical Therapy



- 理学療法学
- 総合理学療法学

主に運動器（筋・骨格系）疾患やスポーツ障害の病態や理学療法について研究しています。また、障害を持っている方の生活支援や介護予防にも取り組んでいます。

Basic Occupational Therapy



- 作業療法学
- 基礎作業療法学

障害を持った方々は、日常生活をすこやかに過ごすことが困難になります。この専攻では作業活動の視点から、日常生活をすこやかに送るために必要な筋や脳の働き、動作、行為、そして精神の働きなどを研究しています。

Applied Occupational Therapy



- 作業療法学
- 心身障害作業療法学

障害を持った方々が、快適で健康的な生活へ復帰するために、作業活動を治療的に展開する方法を修得します。身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害及び地域作業療法領域における教育と研究を行っています。

Basic Sciences



- 医療基礎学
- 医療基礎学

学部では、教養教育科目や専門基礎・支持的科目を中心に、幅広く教育しています。研究は、生物学、生化学、分子生物学、神経科学、統計学、疫学、心理学、公衆衛生学から応用言語学まで多岐に渡り、教員全員が大学院も担当しています。



Staff

School of Health Science

保健学科教員

日進月歩の医療界において、
研究活動と臨床は表裏一体。
常に先端研究への取り組みが行われています。

看護学専攻

基礎看護学 近藤 由香 准教授



主にがん患者へのリラクゼーション法の介入に関する研究を行っています。今後もリラクゼーション法を臨床に活かすことができる研究、がん患者の症状緩和の支援に関する研究を行っていきたくと思っています。

看護学専攻

基礎看護学 恩幣 宏美 准教授



看護職の人材育成やメンタルヘルスに関する研究を行っていきたくと思っています。現在は、妊娠糖尿病患者とその児の生活習慣に関する研究を行っています。

看護学専攻

基礎看護学 浅野 修一郎 教授



人体構造・機能学の解剖分野を担当しており、同実習も担当しています。看護に役立つ解剖学をモットーに進めています。脳の発達や高次機能等中心テーマにしています。

看護学専攻

基礎看護学 辻村 弘美 講師



主な教育活動としては、基礎看護学演習や実習、コミュニケーションに関する授業を担当しています。また、異文化看護や認知症に関する研究などもしています。皆さんの若々しく、そして力強いパワーをいただきながら、私自身も成長していきたいと思っています。

看護学専攻

基礎看護学 桐山 勝枝 助教



基礎看護学の演習・実習を担当しています。ホリスティックケアとして、「エネルギーヒーリング」による自己治癒力に関心を持ち実践しています。また、日本ホリスティックナーシング研究会の事務局運営を通し、看護師やセラピストの方々と学びを深めています。

看護学専攻

基礎看護学 柳 奈津子 講師



看護における基礎的な技術——特に指圧・マッサージ、アロマセラピー、リラクゼーション法などリラクセスを促すための技術の効果の検証を行っています。また、リラクゼーション外来では、それらの技術を提供し指導しています。

看護学専攻

臨床看護学 神田 清子 教授



がん患者・家族のセルフマネジメント、症状緩和と支援、End of Life Careに関する研究を行っています。大学院教育では、がん看護専門看護師の育成も行っています。がん相談に参加し、教育と臨床実践の有機的な連携を図っています。また、群馬がん看護ネットワークづくりを行っています。

看護学専攻

臨床看護学 岡 美智代 教授



生活習慣病患者における塩分制限や運動などの自己管理に関する研究を行っています。またエビデンスを活用した看護についても取り組んでいます。大学院では慢性疾患看護専門看護師の教育を行っています。<http://oka.dept.health.gunma-u.ac.jp/>

看護学専攻

基礎看護学 中村 美香 助教



1、2年生の基礎看護学の演習と実習を主に担当しています。研究テーマとしては看護管理学の中の看護職のキャリア形成や組織マネジメントに関して関心を持ち取り組んでいます。

看護学専攻

臨床看護学 近藤 浩子 教授



こころとからだを健康にしていくヒーリングの研究を行っています。これをストレスマネジメントや疾患を持つ人への癒し技法として活用してもらうために普及活動をしています。精神看護の教育では、グループ療法や認知療法的アプローチに力を入れています。

看護学専攻

臨床看護学 大山 良雄 教授



臨床医学に関する講義を担当しています。糖尿病、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病に代表される慢性疾患に対する予防や療養指導の研究に取り組んでいます。特に、複数の慢性疾患を有する患者さんへの効果的な療養指導を考えていきたいと思っています。

看護学専攻

臨床看護学 二渡 玉江 教授



手術を受けるがん患者の意思決定、心理適応過程の支援に関する研究を行っています。同じ講座の神田教授とともに、がん看護専門看護師教育、がん看護研究会、外来看護相談を行い、教育と臨床の連携、研究成果の実践活用を進めています。

看護学専攻

臨床看護学 上山 真美 講師



老年看護学の講義や演習、実習を担当しています。膀胱留置カテーテル抜去後や排泄障害に対するケアプログラムの開発とその検証に取り組んでいます。また、高齢者への認知症等の介護予防や排尿障害・排便障害に対するケアの実践的な研究に取り組んでいます。

看護学専攻

臨床看護学 坂入 和也 助教



精神看護学実習を担当しています。高齢者や発達障害児を対象とした動物介在活動（アニマル・セラピー）の実践・評価などを行っています。また、災害時の精神障害者の支援について、調査・研究を行っています。

看護学専攻

臨床看護学 内田 陽子 教授



専門は高齢者のアウトカム評価と経済的評価、ケアの質改善。現場のフィールド調査を基本とし研究を進めています。大学や臨床現場の教育活動、地域との連携活動と多岐にわたっていきいきと楽しく、明るく、前向きに活動をしています。

看護学専攻

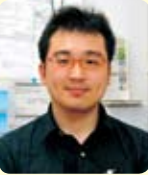
臨床看護学 菊地 沙織 助教



成人看護学の演習と実習を担当しています。研究テーマはがん患者の家族支援です。がんになったとしても、患者とその家族が自分らしく生活できるような支援を見出せるよう、研究に取り組んでいます。

看護学専攻

臨床看護学 井手段 幸樹 助教



成人看護分野の演習と実習を担当しています。研究テーマは慢性疾患患者における運動療法に関してです。患者さんが自分自身の生活を病と共に豊かにできるように、取り組んで行きたいと思っています。

看護学専攻

臨床看護学 小山 晶子 助教



老年看護学の演習と実習を担当しています。高齢者が安全に、安心して生活できるための地域づくりや、身体疾患治療を受ける認知症高齢者へのケアに関する研究に取り組んでいきたいと思っています。

看護学専攻

臨床看護学 日下田 那美 助教



成人看護学の演習と実習を担当しています。研究テーマは、がん患者のQOL向上のための支援です。がんを抱えながらも、QOLを維持・向上しながら生活できるよう支援するための研究に取り組んでいます。

看護学専攻

母子看護学 常盤 洋子 教授



母親意識の発達に関する研究、出産体験の意味づけに関する研究、生涯学習の視座からとらえた助産師基礎教育と臨床の協働型継続教育プログラムの開発に関する研究を行っています。また、母性看護外来（看護専門外来）で妊娠・出産にかかわる悩みや不安に関する看護相談を行っています。

看護学専攻

母子看護学 篠崎 博光 教授



帝王切開の至適週数に関する研究、妊婦のシートベルト着用に関する研究、月経前緊張症と産後うつ病との関連に関する研究など周産期・ウイメンズヘルス関連の研究や多職種連携教育・協働に関する研究に取り組んでいます。

看護学専攻

母子看護学 佐光 恵子 教授



小児の健やかな成長発達やQOLの向上のために、小児保健・学校（思春期）保健を含む、子どもを取り巻く家族・社会の変化や新たな健康課題、多様なニーズに対応できるよう、多職種と連携して、新たな看護を創造し提供していくことが、今求められる「小児看護」の社会的使命と考えています。

看護学専攻

母子看護学 金泉 志保美 准教授



医療依存度の高い子ども在宅療養へ向けての支援や、在宅療養中の子どもと家族のQOL向上のための支援に関する研究に取り組んでいます。また、乳幼児期の生活リズムと健康問題をテーマとした健康教育を手がけてきています。

看護学専攻

母子看護学 國清 恭子 講師



妊娠・出産にかかわるメンタルヘルスに関心があり、現在は臨床現場で使用できる出産体験のとらえ方をアセスメントするツールの開発に取り組んでいます。また、母性看護外来で主に妊産婦の看護カウンセリングも行っています。

看護学専攻

母子看護学 牧野 孝俊 講師



教育では、成長発達過程にある子どもの特徴やQOL向上を念頭に置き、小児看護学方法論、小児看護学方法論演習、小児看護学実習などを担当しています。研究では、「父親の育児不安やワークライフバランスの要因分析」や「児童虐待に対する世代間の認識の差異」、「慢性疾患児のストレスの要因分析」、[Interprofessional Education]における教育効果の分析を行っています。

看護学専攻

母子看護学 深澤 友子 助教



母性看護学、助産学の演習や実習を担当しています。妊娠、出産、育児期における女性のメンタルヘルスに関心があり、現在は、早期産で児を出産した母親の母親意識に関する研究に取り組み、母子と家族を支えるためケアについて検討しています。

看護学専攻

母子看護学 鈴木 禎子 助教



母性看護学・助産学の演習や実習を担当しています。妊産婦の主体性を引出し、子育てにつながるパースプランについての研究に取り組んでいます。育児を見据えた妊娠期からの母子と家族を支援するケアを検討していきます。

看護学専攻

地域看護学 牛久保 美津子 教授



どんな病気や障害をかかえながらも、住みながら自宅で最期に安心して暮らせるための療養生活支援について、さまざまな角度から考え、取り組みます。

看護学専攻

地域看護学 佐藤 由美 教授



「地域での健康づくり活動の推進」、「生活習慣病予防の保健指導」、「在日外国人学校に通う子供の健康支援」など地域の健康課題に対し、保健師や地域住民等関係者と共同で実践的な研究に取り組んでいます。

看護学専攻

地域看護学 森 淑江 教授



看護分野の国際協力、諸外国の看護・看護教育制度、異文化看護、在日外国人・在外邦人への看護、災害看護などに関する研究を広く行うとともに、日本国内の国際協力に携わる人材や海外の看護職を対象とした研修も実施しています。

看護学専攻

地域看護学 桐生 育恵 助教



地域看護学の演習や実習を担当しています。子どもからお年寄りまで、幅広い人々を対象とする保健師の役割や支援技術が研究テーマです。現場のスタッフとともに、地域の健康づくりに取り組みながら、実践的な研究に取り組んでいます。

看護学専攻

地域看護学 松井 理恵 助教



地域看護学実習や演習を担当しています。子育て支援に関心があり、家族や地域で子育てを支えていくための研究に取り組んでいます。地域の保健師や住民の皆さんと共同しながら取り組んでいます。

看護学専攻

地域看護学 辻 佳織 助教



子供さんからお年寄りまですべての人が、安心して入院から退院後の療養生活を送れるようにするための、看護と多職種との連携に関する教育・研究をしています。

看護学専攻

地域看護学 堀越 政孝 講師



文部科学省 GP（特色ある取組）課題解決型高度医療人材養成プログラム【群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー】の専任教員として、医療施設と在宅・地域を繋ぐ事ができる看護職の育成に携わっています。また、消化器がん患者の看護支援の研究をしています。

検査技術科学専攻

基礎検査学 江本 正志 教授



当教室では、NKT細胞をはじめとする各種免疫担当細胞、並びに肝臓、腸管、骨髄を中心に私たちがその存在を明らかにした未知の細胞群の生体内における役割解明を中心に研究を進めています。
●当教室のホームページ
<http://www.geocities.jp/emotolab/>


検査技術科学専攻

基礎検査学 輿石 一郎 教授




生体内で恒常的に産生される活性酸素種・活性窒素種は、疾患と言う観点からは悪玉と考えられています。一方、健康時におけるホメオスタシスと言う観点からは善玉であるとする考え方が有ります。当研究室では、これらの分子種が、善玉・悪玉としてふるまう方向性を決定する要因を解明しようとしています。

検査技術科学専攻
基礎検査学 中村 和裕 教授




たんぱくが異常に折りたたまれ、その結果として神経細胞が障害を受け、脳の病気の研究をしています。生化学的な手法に加えて、工学的なアプローチによる治療戦略を考えています。

検査技術科学専攻
基礎検査学 安部 由美子 准教授




種々の細胞で様々な作用を發揮している増殖因子アクチビンとインヒビン、及びアクチビンの結合蛋白質フォリスタチンの作用と産生調節機序を研究しています。インヒビンとアクチビンには複数の分子種が存在するため、分子種に特異的な測定法も開発しています。

検査技術科学専攻
基礎検査学 中里 享美 准教授




生体内で必須微量元素(Zn, Cu)の代謝調節や重金属(Cd, Hg)の解毒、酸化ストレスの軽減、細胞の増殖・分化、化学発がんの防御等に関する蛋白であるメタロチオネンについて、様々な条件下での生体内における発現や動態を研究しています。

検査技術科学専攻
基礎検査学 時田 佳治 助教




糖鎖は生理機能や疾患の発症と深い関わりがありますが、その動態や機序はよく分かっていません。そこで、①免疫学や分析化学的手法による種々の糖鎖定量法の確立とその動態解析、②分子生物学・細胞生物学的手法による機序の解明を目指して研究を進めています。

検査技術科学専攻
基礎検査学 鬼塚 陽子 助教




感染症の中で、特に寄生虫症に着目し研究しています。寄生原虫は、どのようなメカニズムで感染し、症状を引き起こすのか、ヒトと寄生虫との相互作用を、分子生物学的及び細胞生物学的手法を用いて解析し、迅速診断や感染予防に役立てたいと考えています。

検査技術科学専攻
基礎検査学 笠松 哲光 助教




白血病などの血液疾患を対象として分子生物学的・免疫学的技術を用いた研究を行っています。疾患と宿主との関係を解明し、新しい検査法や診断法の開発を目指しています。
<http://ketsuken-gunma.kenkyuukai.jp/special/?id=16646>

検査技術科学専攻
基礎検査学 茂原 美穂 助教




知的障害と神経発達との関連について、培養細胞や遺伝子操作マウスを用いて研究を行っています。知的障害の早期診断や治療に繋がる研究を目指しています。

検査技術科学専攻
応用検査学 村上 博和 教授




当研究室では、血液疾患、特に血液腫瘍の検査・診断法の開発を目的に基礎研究をしています。主に遺伝子学的技術や免疫学的技術を用いて研究をしています。その他、骨髄腫という血液腫瘍の日本のみならず、国際的治療研究グループにも参加しています。
<http://ketsuken-gunma.kenkyuukai.jp/special/?id=16646>

検査技術科学専攻
応用検査学 横山 知行 教授




心電図、肺機能、超音波、MRI、脳波などの生理機能検査を担当しています。現場のニーズに十分に応えられる臨床検査技師を目指すとともに、呼吸循環器に関する分子生物学から生理学までの幅広い研究を行っています。

検査技術科学専攻
応用検査学 嶋田 淳子 教授




当研究室では国際的感染症であるマラリアやトリパノソーマを対象として分子生物学的研究を行っています。これらの病原体感染による宿主応答などについて分子レベル、細胞レベルで解析し、薬剤開発の研究も進めています。

検査技術科学専攻
応用検査学 齋藤 貴之 教授




専門は血液を中心とした腫瘍学です。研究は、分子生物学的アプローチにより疾患と宿主の関連を同定することを試みています。臨床の現場に役立つ研究を目指します。
<http://ketsuken-gunma.kenkyuukai.jp/special/?id=16646>

検査技術科学専攻
応用検査学 吉田 朋美 准教授




患者さんから採取された細胞を顕微鏡で観察し、良性・悪性の鑑別、病気の判定まで行う「細胞診断」のスペシャリストを目指す学生でいっぱいです。また細胞材料を用い、早期診断に貢献できるような研究も行い、国内・外の学会発表も盛んに行っています。

検査技術科学専攻
応用検査学 松井 弘樹 講師




肥満や糖尿病が虚血性心疾患や動脈硬化、呼吸器疾患などに及ぼすリスクについて、ヒト、動物、細胞など様々な対象から分子レベルによる解析と、超音波検査やCT検査などの画像解析を合わせて検討することで、生活習慣病の予防へ向けた研究をしています。

検査技術科学専攻
応用検査学 松本 竹久 講師




病原細菌の同定検査や薬剤感受性検査などの臨床微生物検査を担当しています。当研究室では病原細菌を対象として、分子生物学的アプローチによる栄養要求性に関する研究や、新しい細菌培養法、細菌検査法の開発を目指した研究に取り組んでいます。

検査技術科学専攻
応用検査学 小林 さやか 助教




専門は病理組織・細胞診断学で、学部教育では標本作成技術や細胞診断学の実習を担当しています。また患者さんから採取された組織材料から、免疫染色を用いて発がんやがんの進展に関与する蛋白を検索し、肺がんや子宮体がんにどのように関与しているか研究しています。

検査技術科学専攻
応用検査学 後藤 七海 助教




ゲノム情報を守るのに重要な「DNA修復」と免疫担当細胞を制御する「サイトカイン」、「ケモカイン」を中心に研究しています。血液系のがんや自己免疫疾患との関連を解明し、新しい検査・治療戦略に繋げることを目指しています。
<http://ketsuken-gunma.kenkyuukai.jp/special/?id=16646>

理学療法専攻
基礎理学療法学 土橋 邦生 教授




研究テーマは、各種呼吸器疾患(喘息、COPD、がん、感染症)発症への、酸化ストレスの関与や、人の吸気中に含まれる成分の測定や、培養細胞を使った研究をしています。また、慢性呼吸器疾患の呼吸リハビリテーションの有効性の検討をしています。

理学療法専攻
基礎理学療法学 白田 滋 教授




基本的動作能力について、三次元動作解析装置などを用いた基礎的な研究や臨床で使用できる評価尺度の開発を研究しています。また、高齢者の健康関連体力や転倒、介護負担感、社会参加などに関する調査研究にも取り組んでいます。

理学療法専攻
基礎理学療法学 朝倉 智之 助教



臨床では中枢神経疾患の患者さんを中心に担当しています。教育については附属病院での臨床実習のコーディネーター等で学生と関わっています。また研究活動として、三次元動作解析装置を用い健康者および患者の動作分析を行っています。

理学療法専攻
総合理学療法学 坂本 雅昭 教授



研究室では、1) スポーツ外傷・障害の理学療法、2) 中・高齢者及び障害者の健康評価と健康づくり、3) アスレティックリハビリテーションなどに関する研究を行っています。また、県内中学・高校サッカー、バスケットボール、野球大会等での理学療法サポートを行っています。

理学療法専攻
総合理学療法学 渡邊 秀臣 教授



運動器の病気や外傷、スポーツ障害に対して最新の診断法や治療法の研究を行い、またチーム医療教育の成果について研究をしています。治療面では手術療法と術前、術後の理学療法を包括的に活用する運動器機能回復治療の研究をしています。

理学療法学専攻

総合理学療法学 山路 雄彦 准教授



臨床では主に切断者や肩関節疾患を担当し、教育では補装具（義肢や装具）、基本的・応用的臨床技能実習などを担当しています。研究では、生理的振戦をはじめとした生体信号解析や三次元動作解析装置による歩行やスポーツ動作の解析を行っています。

理学療法学専攻

総合理学療法学 山上 徹也 准教授



地域リハや介護予防を専門としています。特に研究では認知症高齢者に対するリハの評価方法や介入効果を研究しています。障がいの有無に関わらず、すべての人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる地域作りにはリハの視点で取り組んでいます。

理学療法学専攻

総合理学療法学 久留利 菜菜 助教



呼吸・循環・代謝に関連する内部障害のリハビリテーションやNCDs (Non Communicable Diseases) の分野に興味があり、学部では主にPBLIIIで内部障害分野の理学療法を担当し、呼吸代謝測定装置を使った運動指標や予防についての研究を検討しています。また、学生のアメリカ研修の担当など国際保健の分野でも活動しています。

理学療法学専攻

総合理学療法学 中澤 理恵 助教



症例基盤型実習Ⅱなどの運動器系の授業の実習を担当しています。また、成長期（特に中学生年代）のスポーツ傷害予防に関する研究を中心に、県内中学・高校サッカー及び高校野球大会など、スポーツ現場での理学療法サポートにも取り組んでいます。

作業療法学専攻

基礎作業療法学 外里 富佐江 教授



専門領域は、主に、高次脳機能障害者・高齢者の作業療法の効果と介入、社会参加、障害の心理的適応に関して研究をしています。年齢、性別、人種、障害のあるなしに関わらず、同じ地域で好きな生活スタイルで暮らしていけるような世界を目指しています。

作業療法学専攻

基礎作業療法学 三井 真一 教授



遺伝子操作マウスを用いて精神発達障害の病態や発症機構に関する研究を行っています。また、夫婦や家族の絆が損傷神経の回復に及ぼす影響についても分子・細胞レベルで研究しています。これらの成果は精神疾患や神経再生の診断治療法開発の基盤となります。

作業療法学専攻

基礎作業療法学 菊地 千一郎 教授



専門は臨床精神医学です。脳機能イメージングを用いた認知神経科学研究を行っています。研究を通して、よりよい治療法の開発につなげていきたいと思っています。国家試験に合格するだけでなく、後の臨床に役立つような精神医学の授業を心がけています。

作業療法学専攻

基礎作業療法学 李 範爽 准教授



学部教育では作業療法の中でも主に身体障害領域の講義・実習を担当しています。また、脳機能画像法や運動生学的手法を用いて、日常生活を営む上で必要な、感覚、認知、運動機能について研究しています。

作業療法学専攻

基礎作業療法学 池澤 麻衣子 助教



細胞内の膜小胞輸送に関与するタンパク質について、その局在や機能の解明をテーマに、研究を進めています。主に、マウスの各臓器や培養細胞を用いて、実験を行っています。

作業療法学専攻

基礎作業療法学 下田 佳央莉 助教



注意などの認知機能を高める、効果的な作業療法の実践を目的に、脳機能計測装置などを用いた研究を行っています。加えて、がん患者さんにおける作業療法の役割についても、探究し始めた所です。主な担当授業は、チームワーク実習です。

作業療法学専攻

心身障害作業療法学 山崎 恒夫 教授



専門は臨床神経学で、主として細胞生物学的アプローチを用いた認知症の研究を行っています。今後は認知症によって生じる高次脳機能障害の分野にも研究のフィールドを広げようと考えています。

作業療法学専攻

心身障害作業療法学 今井 忠則 准教授



学部では、精神保健・メンタルヘルス領域における作業療法の専門科目を主に担当しています。大学院では作業療法理論、作業科学に関する講義を担当しています。作業参加と健康・well-beingとの関連を実証的に明らかにするべく調査研究に取り組んでいます。

作業療法学専攻

心身障害作業療法学 勝山 しおり 助教



認知症や要介護状態の高齢者・障害者が「わたしらしい生活・人生」が出来るよう、個人の趣味・嗜好を考慮した作業療法、予防的観点を含めた作業療法の実践について興味を持って取り組んでいます。

作業療法学専攻

心身障害作業療法学 亀ヶ谷 忠彦 助教



地域高齢者の介護予防とヘルスプロモーションをテーマに、地域の医療機関や行政と協力して研究に取り組んでいます。車いすなど各種福祉機器を用いた高齢者・障害者の自立生活支援も研究テーマです。海外の大学との交流プログラムに積極的に取り組んでいます。

医療基礎学

医療基礎学 林 邦彦 教授



医療従事者からなる大規模女性コホート研究 (JNHS) で、日常生活や保健医療習慣がどのように健康に影響を与えるかを、経時的に調査しています。また、子宮内膜症患者コホート研究 (JEMS) など、集団を対象とした疫学という研究法で予防や治療の評価を行っています。

医療基礎学

医療基礎学 吉田 亨 教授



地域保健活動に不可欠な健康教育とヘルスプロモーションについて研究しています。住民 (当事者) 参加による保健福祉のまちづくりに特に関心があり、大学院では地域健康推進学を担当しています。

医療基礎学

医療基礎学 大西 浩史 教授



生体制御に関わる細胞シグナルの分子メカニズムと機能について、中枢神経系や生体のストレス応答を対象とした基礎研究を行っています。生命システムの姿を明らかにすることで、より健康で安全な暮らしの基礎を形づくることを目指します。

医療基礎学

医療基礎学 村田 祥子 准教授



心理学の立場から、行動指標・生理指標を用いて人間の適応過程に接近を試みています。適応過程には学習機構が深く関わると捉え、主要な課題として記憶、学習の領域を位置づけています。

医療基礎学

医療基礎学 川島 智幸 准教授



専門は応用言語学です。国際英語論や非母語話者が話す英語と接することで、日本人英語学習者の英語を話す自信や国際的志向性、英語力の自己評価がどう変わるかを研究しています。また、スピーキングの評価に関する研究にも取り組んでいます。

医療基礎学

医療基礎学 上宮 英之 講師



原始的な昆虫類が、どのような発生をするかを調べて、それを元に昆虫を含む節足動物がどのように進化してきたのかということを研究しています。担当授業科目は、生物学Ⅰ、情報・昆虫の科学、動物の分類と進化、虫の名前を調べてみようです。

医療基礎学

医療基礎学 豊村 暁 講師



脳機能計測と行動計測を主な手法として、吃音 (きつおん) など発話運動制御に関する研究を行っています。また、四肢のリズム運動が発話流暢性を促進することから、二足歩行の研究も行っています。物理学、医用電子工学などの授業を担当しています。

保健学科カリキュラム

Department of Nursing

看護学専攻

医療・保健の現場で看護の専門性を発揮できる能力と国際看護協力が実践できる能力を育成します。

教育特徴

生命、個人を尊重し、的確な看護を提供するために、看護の専門的知識や技術を学びます。病気を予防する健康教育、健康回復への支援、終末期ケア、人間のライフサイクル各期における看護、地域での暮らしや看取りまでを見据えた看護を習得し、高度・専門化した保健医療福祉に対応できるような教育を行います。

看護学専攻の教育目標は、在宅マインドをもち保健医療の専門職として、健康問題を有する人々に接する真摯な態度と生涯にわたる自己学習の習慣を体得することにあります。学生が将来、保健医療福祉におけるチームの中で看護の専門性を発揮し、ケアの調整やマネジメントにリーダーシップを発揮でき、さらに、国際化の進展に対応して世界の看護に視野を広げ、国際看護協力が実践できる人材を育成します。看護師または保健師、助産師になるために、看護学の基本的知識を理解し、科学的でクリティカルな思考能力と看護の実践に必要な基本技術を修得することを目指しています。

看護学専攻のカリキュラムは、看護師、保健師、助産師の各専門領域における知識や技術が効率よく修得できるように工夫されています。具体的には、①人間の身体的・精神的側面、人間を取り巻く社会環境についての学習、②看護学の基礎理論や方法論の学習と看護実践能力の修得、③人間のライフサイクル各期における健康の保持増進を図るための知識と援助技術の修得、④看護活動の場の拡大に対応した看護実践能力の修得、⑤健康障害者の看護を実践する知識と援助技術、態度の修得、⑥国や地域レベルの健康課題の解決とシステムづくりに関わる看護実践能力の修得から構成されています。先駆的に臨床と連携して看護専門外来を開設・運営し、卒後のキャリア開発の教育も目指しています。



Department of Laboratory Sciences

検査技術科学専攻

高度な知識と技術を備え、国際的な活躍ができる臨床検査技師を育成します。

教育特徴

日進月歩で発展する検査技術科学分野の専門知識や技術を学び、検体検査、生理機能検査、病気早期発見のための検査、遺伝子検査、画像解析などをマスターして、高度・専門化した医療に対応できるような教育を行います。



検査技術科学専攻では、「全人的医療」・「チーム医療」・「バイオサイエンス」をキーワードに、確固とした倫理観と豊かな人間性をもち、高度な技術と知識を備えた臨床検査技師育成を目指しています。チームワーク実習を通じて、チーム医療の重要性を指導すると共に、遺伝子検査や画像解析などの最新検査技術の教育に力を入れています。

また、高度な臨床検査学の教育・研究体制を支える人材を育成するため、卒業研究に1年間を当て、各教員の指導のもと研究を行い、論文作成を行っています。これにより、十分な研究手法及び研究的思考法を習得し、将来研究職・教育職につく人材育成が可能です。また、国際社会で活躍できる人材育成のため、英語論文の輪読などを通して、英語による口頭・紙上発表の基本を学びます。さらに、国際的視野を広めるため、ワシントン大学医学部臨床検査学科との交換留学も実施しています。また、本学では細胞検査士養成コース(3～4年次)を開設しており、修了者は4年次に同資格認定試験(日本臨床細胞学会)の受験資格が得られます。

このように、本専攻では日本のみならず、世界で指導的役割を担える臨床検査技師の育成を行っています。

Department of Physical Therapy

理学療法学専攻

新しい機能回復の理論、技術の
研究・開発能力を育てていきます。

教育特徴

専門職としての態度や実践的な技能の修得が円滑に図れるよう、科目の枠を超えた教育を心がけ、机上での学習だけでなく、臨床での体験や実習などを通した能動的な学習への支援を重視しています。

少子・高齢社会という現代の日本において、疾病構造の変化や医療・福祉サービスの多様化、グローバル化に伴い、理学療法士に求められる社会的ニーズも拡大しています。その社会的ニーズに応えるためには、人間や社会を幅広く捉える知識と実践的で効果的な技術が求められています。理学療法学専攻では、医学や人間学等の知識をもとに、理学療法に必要な疾病と障害の成り立ちやその実態についての基礎的知識を学び、機能や障害を評価する方法、障害に対する運動療法、物理療法、補装具療法などの適応理論と臨床応用を学びます。また、運動器系理学療法学、神経系理学療法学、発達障害理学療法学、内部障害系理学療法学などの専門的な理学療法の理論と技術を習得し、急性期から地域や在宅での理学療法、健康管理やスポーツ分野での理学療法など、幅広い分野における理学療法について学びます。さらに、海外の理学療法に触れられる機会として、アメリカやモンゴル国での研修プログラムや留学生との交流にも力を入れています。そして、世界的視野でこれからの理学療法学の発展に貢献できる新しい理論や治療技術の研究・開発能力を修得し、臨床・教育・研究の分野において活躍できる人材の育成を目指しています。



Department of Occupational Therapy

作業療法学専攻

心と体に障害を持つ人々の生活支援の
知識と技術を学びます。

教育特徴

健康機能を制限された人に対する専門的な判断力や接触態度を養い、作業活動の活用、評価・治療・援助及び研究に必要な知識と技術を学び、臨床実習で専門職業人としての学習を統合します。



作業療法は、心身の健康機能を制限された方々が、自立生活に必要な日々の生活技術や社会的適応能力を修得して、快適で個性的な生活を営めるように援助することを目標とします。また、作業活動を治療・援助の手段として、対象者の方々のニーズを満たし、心身の健康機能や生活の質の向上を目指すサービスです。

作業療法学専攻では、基礎分野として、科学的思考の基盤や人間と生活に関する教養科目を学び、人間理解を深めます。専門基礎分野として、人体の機能・構造や心身機能の発達、疾病や障害とそれらの回復過程、保健・医療・福祉とリハビリテーション理念を学び、専門性の基礎理解を深めます。専門分野として、作業療法過程の構築、評価、治療援助、地域生活への適応、臨床実習及び研究に必要な知識と技術を学び、専門職業人としての学習を統合します。

卒業生は、保健・医療・福祉など実践の職場で活躍するほか、大学院博士課程(前期・後期)に進学しています。作業療法士には、近年、地域社会での障害予防や健康増進、特別支援教育の担い手としても期待が高まっています。

私たちの大学生活

群馬大学医学部の学びの現場にいる先輩たちが、待っている。

医学科

大内 麻代 さん

- 医学部医学科2年
- 東京都 東洋英和女学院高等部 出身

Ouchi Mayo



疑問を分子レベルで解決できる楽しさ
沸き上がる好奇心と探究心を大切に

幼い頃、父の仕事の関係でケニアに住んでいました。スラム街で貧しくても活気に生きる人たちを見て、この人たちのためになる仕事をしたいと思ったのが医師を目指したきっかけの1つ。その時に出会った2人の日本人医師の存在も大きく影響しました。

大学で好きな科目は、今年から始まった「生命医学」。高校生のころは大ざっぱにしか教わらなかった部分を細かい分子レベルで教えてもらえるので面白いし、今まで抱いていた疑問が解消できて心もスッキリします。他大学の医学部に行った高校時代の友人と話して分かったのは、本学のように図書館が24時間利用できる大学は少ないということ。館内の広い学習スペースでは友達と一緒に勉強でき、分からないときはすぐに資料が探せるのでとても便利です。1年生の必修科目である「医の倫理学」も特徴的。最終的な結論を出すのが難しいけれど病院で直面しそうな課題について、医師はどうあるべきか？ 患者さんにできることは何か？ を考えます。求められるのは自発性と積極性。患者目線から医師目線に変わる準備段階で必要な講義だとも思いますね。

これから大学を目指す高校生には、理系の科目だけでなく学校のすべての授業に真剣に取り組んでほしい。高校は総合的な教養を身に付けられる貴重な機関で、そこに在籍できるのはとても贅沢なことだと思います。また、疑問に思ったことは積極的に調べる癖をつけておくといいですね。それが「学ぶ姿勢」につながります。自分の中に沸き上がる好奇心や探究心も大事に。なぜ？ どうして？ と疑問に思うこと、疑問を明らかにするために自ら行動することは素敵なこと。それが自分の扉を開く大きな力になると思うんですよ。



Time Table

	月	火	水	木	金
1					動物実験学
2			医学統計学		基礎遺伝学
3		物理学実験		生命医学Ⅰ／Ⅱ	生命医学Ⅰ／Ⅱ
4			医学情報処理演習		
lunch time	ランチ				
5	英語	生命医学Ⅰ／Ⅱ			
6					
7					
8					
9	GFL				
10					
after school		部活		部活	

私たちの大学生活

群馬大学医学部の学びの現場にいる先輩たちが、待っている。

医学科

根岸 涼介 さん

- 医学部医学科5年
- 群馬県立前橋高等学校 出身

講義を受けて知った医学の奥深さ
スポーツに強い整形外科医が夢

小学生のころから続けている水泳で腰や肩などを傷める友人を見て、ケガで悩むスポーツ選手の役に立ちたいと思い医師を志すようになりました。過ごしやすい、地元群馬で医療に携わりたいとの思いから本学を志望。本格的に取り組んできた水泳を続ける上でも、県内大学への進学は理想的でした。

医学生は真面目で堅いイメージがありましたが、実際は明るく元気な人が多いですね。良い意味で意外でした。高校のころと違って、講義はどれも興味のある分野なので学ぶ楽しさも存分に味わっています。興味深かったのは、解剖学。自分でご猷体にもメスを入れ、筋肉、神経、臓器などを観察。3カ月間、集中して取り組むのは大変でしたが、人の体の不思議や神秘に触れて感動し、医師への気持ちが一層強まりました。受けてみて予想以上に面白かった講義は、法医学。病気を治すのでも生身の人と接するのでもなく、死をスタートに生を推測するといった、自分が今まで知っていたのとは時間の流れもアプローチも逆の医学があることを体感。医学の奥深さを改めて知った気がします。

部活動が盛んなのも本学の特徴の1つ。私が所属している水泳部はとても強く、今は東日本医科学学生総合体育大会に向けて練習に励んでいます。目標は個人・団体共にもちろん優勝。部活を通じて縦横のつながりができるのは楽しいし、うれしいですね。先輩からは、勉強でのアドバイスもいただけるので心強く感じています。

夢はスポーツ面に強い整形外科医になること。今、実習で行っているいろいろな診療科での経験もこの先大きく役立つと確信しています。



Negishi Ryoussuke



Time Table

	月	火	水	木	金
1					
2	臨床実習	臨床実習	臨床実習	臨床実習	臨床実習
3					
4					
lunch time	ランチ				
5					
6					
7	臨床実習	臨床実習	臨床実習	臨床実習	臨床実習
8					
9					
10					
after school	部活	部活		アルバイト	アルバイト

私たちの大学生活

群馬大学医学部の学びの現場にいる先輩たちが、待っている。

保健学科
看護学専攻

寺本 萌華 さん

- 医学部保健学科看護学専攻3年
- 埼玉県立伊奈学園総合高等学校 出身

Teramoto Moeka



目標は頼れる助産師、尊い命に寄り添いたい 看護師+助産師、2つの国家資格取得を目指す

看護学科を目指すきっかけを作ってくれたのは、中1のときに生まれた妹。そのとき初めて助産師さんの働きを知り、その支援力に強い関心を持つようになりました。もともと保育の道も考えたくらい子ども好き。それに、理系が得意という自分の性質もあわさり、自然と助産師を志すようになりました。在学中に看護師と助産師の受験資格が同時に取れるカリキュラムに惹かれて本学を選択。オープンキャンパスで、先生と学生が仲良く話す姿に双方の距離の近さを感じたことも、本学を志望した理由の一つです。

講義では、やはり興味のある「母子看護学」や「助産学論」が好き。妹を妊娠中だった当時の母の姿を重ね合わせると、講義の内容もすんなりと頭に入ってきました。2年次の実習は、自分の視野を広げたり、情報を得て、それがどのような意味を持っていて、どんなニーズがあるのかを考えることの大切さを学んだりするよいきっかけになりました。

ワンダーフォーゲル部の活動でも、共通点を実感。山に登る前には基礎知識習得(計画書作成、天気図・地図、装備、緊急対策等)、そして経験で培うのは技術力、身体力、判断力、精神力など。基本的学びの上にも、実力が積み上げられていくと思います。

看護師や助産師に進む道はいろいろありますが、大学に進学して良かったと思うのは、グローバルな視点で看護を捉える講義があったり、看護の対象者を生活者として捉える視点で学ぶことができたり、広く一般教養も学べたりするところ。

現場に出て患者さんと話すときにも必要となる教養は、今後も増やしていきたいですね。

目標は頼れる助産師。夜勤でも耐えうる体力を備え、不安な妊婦さんには寄り添い、母子の健康面・精神面でも援助できたらと思います。何よりも尊い赤ちゃんの命を育むことの一助になりたいですね。



Time Table

	月	火	水	木	金
1		医療生命倫理	国際看護学	成人看護学方法論 演習Ⅰ	災害看護学
2					
3	疫学		精神看護学方法論	成人看護学方法論 演習Ⅱ	
4					
lunch time	ランチ				
5	在宅看護学方法論		看護管理学	小児看護学方法論 演習	
6					チームワーク実習
7	老年看護学 方法論演習	地域看護学方法論 Ⅲ	母性看護学方法論 演習		
8					
9		地域看護学方法論 演習Ⅰ	リハビリテーション 概論		助産学総論
10					
after school			部活	アルバイト	アルバイト

私たちの大学生活

群馬大学医学部の学びの現場にいる先輩たちが、待っている。

保健学科
検査技術
科学専攻

黒岩 希美 さん

- 医学部保健学科検査技術科学専攻3年
- 群馬県立前橋南高等学校 出身

興味のあることが学べて楽しい大学の講義
実習で感じた臨床検査技師に求められる正確性と責任

将来、なりたい職業が決まっていなかった中2のとき、なぜか「群大に行きたい」という気持ちだけは固まっていました。高1のときにけがで入院したことで病院に親しみを感じたこと、得意な生物や化学が生かせ、好きな実験らしいことができる職業として検査技術科学専攻を考えるようになりました。高校時代の勉強は、定期テストに力を入れていました。そのことが、知らず知らずのうちに計画的に勉強することにつながりました。

大学の講義は興味のあることがじっくり学べてとても楽しいですね。2年生の後半から実習が増え、一層楽しくなってきました。先生を見ていると手際よくササツとなさるので簡単そうですが、実際やってみると難しくて…。グループに分かれて同じ実験をする実習では、最初のころ、同じ素材を用いて同じ条件でやっているのにグループごとに結果がまるで違うということもありました。医師が治療方針を決める大事な要素である検査結果なのに、こんなに違ってどうしよう…と焦りました。臨床検査技師の仕事は医療の入口で、私たちが出した結果で人の命が左右されることもあります。責任の大きさと検査に求められる正確さを改めて感じました。機械を使うイメージが強い検査ですが、本学では顕微鏡を使ってじっくり細胞を見るというようなアナログ的な方法も多くとっています。原理を体で覚えられ、自分で考えるチャンスもいただいていると感じます。

検査が学べる学校は多々ありますが、私は本学に入学できて本当に良かったと思っています。仲間はみんな話しやすく親しみやすいし、大学院生も親切な方ばかり。全学のバレー部に入っているのも、他学部の人ともたくさん知り合いになれ、友達の輪も広がりました。

Kuroiwa Nozomi



Time Table

	月	火	水	木	金
1					
2			臨床化学Ⅱ	保健行政論	細胞診断学Ⅰ
3	臨床生体機能学Ⅲ		臨床化学実習Ⅰ	検査管理総論	RI検査技術学
4	臨床生体機能学Ⅳ				
lunch time	ランチ		ランチ		
5	病原生物学		臨床生体機能学Ⅴ	病態組織細胞学	
6					チームワーク実習
7	病原生物学実習		臨床生体機能学実習		
8		生体防御学実習			
9					
10					
after school	アルバイト	部活	アルバイト	部活	アルバイト

私たちの大学生活

群馬大学医学部の学びの現場にいる先輩たちが、待っている。

保健学科
理学療法学専

小林 壮太 さん

- 医学部保健学科理学療法学専攻3年
- 長野県立長野西高等学校 出身

幅広い活躍フィールド。東京五輪にも携わり、日本の理学療法の素晴らしさと技術力の高さを世界に広めたい

Kobayashi Souta



医療に興味があったことや、人と触れ合う職業に魅力を感じていたことから、理学療法士(PT)に関心を持ち始めました。高2のとき、本学のオープンキャンパスに参加。アットホームな雰囲気につかれ、ここでPTになるための勉強をしたいと思うようになりました。

理学療法学専攻は、ひと学年20人。人数が少ないこともあってみんな仲が良く、高校の延長のよう。縦のつながりも強く、新入生歓迎会、PTバレーボール大会など、学年の垣根を越えた行事が多くて楽しいですね。先輩からは、今の時期に力を入れておいた方がいい科目や勉強の仕方などをアドバイスしていただけるのでありがたいですね。

理学療法士の代表的な職場は、病院、老人保健施設、スポーツ分野などと幅広く、患者さんの状態によって急性期、回復期などさまざまな時期で関わります。2年次の病院見学は、種類の異なる6つの病院を見られる好プログラム。PTを目指す他校の学生からもうらやましがられます。ひと言でPTと言っても活躍するフィールドが違えば、やることも異なります。それぞれの現場でPTの仕事を見られたことは、将来を考える大きなヒントになりました。

今夏、初めてカナダにある大学の短期留学プログラムが計画され、私も参加する予定です。大学で研究のアシスタントをさせてもらえるそうなので、とても楽しみなんです。そのためには、英語を勉強中。同学は姉妹校が多く、アメリカやモンゴルへの研修プログラムもあります。海外の理学療法に触れる機会が多く、恵まれた環境だと思います。近い将来の夢は、東京五輪に何らかのかたちで関わること。日本の理学療法の素晴らしさや高い技術力を世界に示したい。大舞台の前に夢は広がります。



Time Table

	月	火	水	木	金
1			臨床理学療法学Ⅲ	整形外科学Ⅱ	
2					
3	臨床運動学			神経内科学Ⅱ	
4					
lunch time	ランチ				
5		地域保健推進論	臨床理学療法学Ⅰ	臨床理学療法学Ⅱ	
6					チームワーク実習
7		理学療法研究法入門	臨床理学療法学実習Ⅰ	臨床理学療法学実習Ⅱ	
8					
9					
10					
after school	アルバイト	部活		部活	アルバイト

私たちの大学生活

群馬大学医学部の学びの現場にいる先輩たちが、待っている。

保健学科
作業療法学
専攻

上村 怜奈 さん

- 医学部保健学科作業療法学専攻3年
- 愛媛県立今治北高等学校 出身

積極性は、自分と周りの人に幸せを呼び込む引力
患者さん、家族、地域をサポートできるOTに

作業療法士(OT)になろうと思ったのは高校3年生の春。体調を崩して沈みがちな祖父に少しでも良くなってほしいという気持ちが、作業療法の道に向かわせました。

OTに対する意識が変わったきっかけは、2年生の見学実習。実習先の精神病院で、実際にOTが働く現場を初めて目の当たりにし、講義では分からなかった部分が多いことに気づきました。今までは、教えていただいた方法を実行すればすぐに患者さんと良好な関係が築け、即座に効果が出ると思っていましたが、現実、スムーズに行くことは稀。それでも「患者さんのちょっとした変化や進歩が見えることがうれしい」という先輩OTの言葉が心に残っています。幸せに向かう小さな他人の変化を共に喜べるのは素敵だと思いました。

講義や実習を通して、人との関わりの大切さも学びました。患者さんの情報をしっかり把握することは、作業療法を実施する上でとても重要なこと。それには、それぞれの患者さんに合わせて話し方や言葉の使い方を変える必要があります。その能力は短期間では身に付かないので、いろいろな人に接して自分を磨くことも大事だと思いました。

将来は、患者さんだけではなく、患者さんを支える家族や地域に目を向けたOTになりたい。患者さんと同じくらい疲れていたり、悩んでいたりにしている周りの人がもっと楽に関われるようサポートできるOTになるのが目標です。

高校生におすすめしたいのは、自分がリーダーになって進める経験をしておくこと。率先してできる人は得ることがいっぱいあると思います。皆がやりたがらないことをやる積極性は、今もこの先も大事。自分にも自分の周りの人にも幸せを呼び込む力になるはずです。

Uemura Reina



Time Table

	月	火	水	木	金
1	日常生活活動学			整形外科学Ⅱ	
2					
3	日常生活活動学 実習		老年期障害 作業治療学Ⅰ	神経内科学Ⅱ	身体障害作業 治療学Ⅰ
4					
lunch time	ランチ		ランチ		
5	地域作業療法学概論		総合能力評価学	精神障害 作業治療学Ⅰ	
6	地域作業療法学各論				チームワーク実習
7				発達障害 作業治療学Ⅰ	
8	作業療法評価学 実習	作業治療学実習			
9				精神医学Ⅲ	
10					
after school	部 活	アルバイト	部 活	アルバイト	部 活

医学部医学科



小和瀬 桂子 さん

医学部医学科 平成7年3月卒業
大学院医学系研究科博士課程修了
群馬大学大学院医学系研究科社会環境医療学講座総合医療学 講師 医学博士
埼玉県立熊谷女子高等学校 出身

多方面で活躍できる医師
自分の道を狭めることなく
広い世界で羽ばたいて

現在、附属病院の総合診療部に医師として勤務。どの科を受診したらいいかわからない、または他の病院を受診しても、症状が改善しないという患者さんを診察させていただき、私たち医療スタッフが知識を持ち寄って診療を行っております。TVの「ドクターG」のイメージですね。ほかにも来年度から新しく始まる総合診療専門医育成のプログラム制作に携わったり、研究を続けたりしています。総合診療部でのやりがいは、ご自分の症状に悩んでいた患者さんの治療を可能にできること。「ありがとう」と言われると医者冥利に尽きますね。人材育成では、新しいホットな現場で総合診療医の育成やマネジメントに関われること。新しい挑戦に胸がときめきます。

医師の仕事は、とても幅広いもの。未来ある学生さんには、自分の道を狭めないでほしいですね。経験しないと分からないことや得られないことはたくさんあります。私も3年間のアメリカ勤務や、今回のように新しい分野に飛び込むことで、研究の手法や知識、人脈など新たな技術やつながりを築くことができました。本学は都心へのアクセスもよく、学会などに出席するにも便利。優秀な先生も多くいらっやいます。病院が隣接していて、実習をするにも研究をするにも恵まれた環境にあります。そんな本学で自分の可能性を広げてほしいと思います。Where there's a will, there's a way. (意志あるところに道あり。)自分の目標に向かって、羽ばたいていってください。

医学部医学科



天野 出月 さん

医学部医学科 平成19年3月卒業
大学院医学系研究科博士課程修了
群馬大学大学院医学系研究科応用生理学分野 助教 医学博士
東京都 巣鴨高等学校 出身

やりがい溢れる医師という職業
たくさんの患者さんに喜ばれる
医師の育成を目指す

大学卒業後、3年間研修医を経験した後、大学院に進学。今は大学院で甲状腺ホルモンの研究を進めると同時に、助教として講義や実習を通して学生の指導にあたっています。

医師には大きく分けて、患者さんの診察や治療をする臨床医と、基礎研究を行う研究者の道があります。臨床医は目の前の患者さんが良くなる様子を見られる喜びがあります。「ありがとう」と言ってもらえるとうれしく、また患者さんの力になりたいと意欲がわいてきます。研究者は、患者さんに接しませんが、病気が発生するメカニズムを発見できたり、発症の危険性を防げたりすることで、未知数の患者さんの役に立てる可能性があります。どちらも面白く、やりがいのある職業です。

未来の医師を育てる立場になって意識しているのは、自分が「この人に診てほしい」と思えるような人材の育成です。知識や技術があるのは当然のこととして、高い人間性とコミュニケーション能力を持ち、常に自分自身のアップデートを欠かさない人…、と欲張り過ぎたでしょうか(笑)。いずれにしても大切なのは、いろいろな経験をする事だと思います。勉強もそのうちの1つ。「あなたに会えてよかった」と患者さんから思われるような医師を育てること、自分自身がそう言われる人になることが今の目標。一緒に成長できる皆さんと会えることを心よりお待ちしております。

医学部保健学科看護学専攻



瀬沼 麻衣子 さん

医学部保健学科看護学専攻 平成21年3月卒業
大学院保健学研究科博士前期課程修了
群馬大学大学院保健学研究科 助教 看護師
群馬県立中央高等学校 出身

想像よりずっと幅広い
看護師の仕事。群大ならではの
貴重な体験に充実の毎日

卒業後、念願だった病棟に配属され、3年間、看護師として勤務した後、看護師を続けつつ大学院に進学。今は附属病院と群馬大学との人事交流で、大学で助教として講義の手伝いや演習・実習の引率をしています。このような貴重な体験ができるのも群大ならではのメリットです。

社会人になって8年目。看護師を続けて来られたのは、スタートである実習での経験が大きいですね。実習先で目標となる先輩看護師に出会えたこと、1人の患者さんとじっくり関わる経験ができたこと、チームワーク医療がなされている環境に自然に溶け込めていたこと、良い仲間や同僚に恵まれたこと、すべての要素が重なりあって看護師という階段を上り続けることができているように思います。やりがいは「ありがとう」という感謝の言葉をいただけること。元気になって退院される患者さんの姿を見られるのは、とてもうれしいものです。

大学時代の仲良しは、東京に行った人、派遣ナースとして離島で働く人、助産師や保健師になった人とさまざま。改めて看護師はいろいろな働き方があると思いますね。学生時代に興味のある分野を広げたら、自分の将来も幅広く考えられるようになるのではないのでしょうか。高校生が考えているよりもずっと働く場所は広い。それが看護師の魅力の1つだと思います。

医学部保健学科検査技術科学専攻



梅林 ゆかり さん

医学部保健学科検査技術科学専攻 平成26年3月卒業
群馬県済生会前橋病院検査科勤務 臨床検査技師
埼玉県立川越女子高等学校出身

病気や異常をいち早く発見。
責任感の大きさを感ずるたびに
モチベーションもアップ

前橋市内の病院で臨床検査技師としてエコーや心電図など生理検査に携わっています。学生時代、エコーの画像や心電図の波形の見方をたくさん勉強したつもりでしたが、現場は違いますね。まず驚いたのは、患者さんによって画像の見え方が全然違うこと。改めて人は教科書通りではないと実感しました。次に先輩の仕事ぶり。1つの異常を見つけたとき、それが及ぼすさまざまな影響を考え、関連する臓器の検査も一度にサツと済ませてしまうのです。私も早く先輩たちのようになりたいですね。

検査終了後「あなたのように優しい人に検査してもらえて良かった」と言われると、とてもうれしく励みになります。「異常なし」が一番ですが、病変を見つげられると、進行する前の段階で見つげられて良かったと思います。ドクターと直接話すことは多くありませんが、電子カルテを見て私の検査を元に診察をしているのが分かるとうれしく、人の役に立つことをダイレクトに感じられる良い仕事に就けたと感じますね。

社会人になって改めて高校時代を振り返ると、もっと英語を勉強しておけば良かったと後悔しています。近頃は外国の患者さんも多いので、英語ができるとコミュニケーションも深まるでしょう。頭が柔軟な高校生のうちに取り組みれば、たくさんの言葉を覚えることができると思いますよ。

医学部保健学科理学療法学専攻



鈴木 真海 さん

医学部保健学科理学療法学専攻 平成26年3月卒業
大学院保健学研究科博士前期課程修了
社会福祉法人二之沢愛育会 群馬整肢療護園勤務 理学療法士
群馬県立前橋女子高等学校出身

職場の人に支えられて大学院へ
社会に出て感じる
チームワーク医療の大切さ

卒業後、就職と同時に大学院へ進学。4年生の卒業研究で分かったことがたくさんあり、それを実証してリハビリに生かしたいと思ったのが進学のきっかけです。仕事と研究の両立は不安でしたが、職場の人に支えられて修了することができました。研究で生活空間の拡大が身体機能の高さや生活の質の向上に影響することが分かったので、このことを利用者さんのためにも広く伝えたいと思います。

今は、障害を持つ子どもたちの施設で重症の心身障害を持った人たちのリハビリを担当しています。仕事をする上でのモットーは、利用者さんの笑顔を引き出すこと。言葉でコミュニケーションを取ったり、表情や仕草から思いを汲み取ったりするのは難しいのですが、声掛けや接し方で笑顔を引き出すことができます。利用者さんの笑顔が私の喜びであり、仕事のやりがいにつながります。また、最近では他職種との連携もスムーズにできるようになり、自分なりに成長を感じます。在学中に本学が力を入れているチームワーク医療で得た考え方も、現場での経験を重ねることで身につけてきたように思います。逆に目に見える変化が得られないときは、自分の技術不足ではないかと悩みます。そんなときの相談相手は先輩。先輩はいろいろな引き出しを持っていて、先輩が接すると短時間で目に見える変化が出ることも少なくありません。私も早くそんな存在になりたいと日々、頑張っています。

医学部保健学科作業療法学専攻



福山 竜司 さん

医学部保健学科作業療法学専攻 平成27年3月卒業
大学院保健学研究科博士前期課程在籍
社会福祉法人二之沢愛育会 群馬整肢療護園勤務 作業療法士
長野県立松本県ヶ丘高等学校出身

学業と仕事の両立で
現場に活かせる
知識と技術に磨きをかける

卒業後、就職と同時に大学院へ進学。学生と社会人、2足のわらじをはいて奮闘中です。

作業療法士は、利用者さまの幸せのために、その人の能力を生かしながらさまざまな作業技法を使つてのサポート方法を考える職業。人は往々にして「できないところ」に目が行きがちですが、この仕事は利用者様の「できること」に着目し、可能性を引き出すことのできる素晴らしい仕事だと思います。

今は、心身に障害を持った方の医療・療育機関で入園者様のリハビリをしたり、外来で自閉症の方と向き合ったりする毎日。感情が表に出づらいつ方が、私の提案した遊びに夢中になってくれたり、笑顔が増えたりするのを目の当たりにできるのがうれしいですね。

社会に出て改めて感じるのは、本学は指導者の質が高いということ。学生時代に、この道の権威の指導を仰げることはとても有難いことだと思います。卒業研究に取り組めたのは、大変でしたがとても良い経験となりました。学術的な文献を読む癖もついたし、さまざまな資料を読み解く方法も身につきました。学ぶということを体得でき、研究の面白さも実感することができました。また、研究発表後は、いろいろな方たちと意見を交換する機会に恵まれ有意義でした。今後も臨床の経験を積みながら研究を深めていきたいと思っています。

Club & Committee

Campus Life

クラブ・コミッティー

■ 硬式庭球部



群馬大学医学部硬式庭球部です！テニス経験者はもちろん、大学からテニスを始めた人も多く、みんなで切磋琢磨しながら練習に励んでいます。また休日には部員同士で遊びに行くこともあり、仲が良いのが特徴です。テニス部で楽しく充実した学生生活を送りましょう♪

■ 水泳部



水泳部は男女合わせて63人で活動しています。全学部で行っている部活なので、医学部だけでなくいろいろな学部の先輩や友達など幅広い仲間ができます！経験者だけでなく、大学から水泳を始める人も多く、誰でも大会に参加できるのも魅力の一つです！



みなさん、水泳部で自分の限界に挑戦してみませんか？見学、体験いつでもお待ちしております！

昭和キャンパス
サークル

※その他、荒牧キャンパスにも多彩なサークル活動があります。

スポーツから芸術、ボランティア、医学部ならではのサークルまでバラエティに富んでいます。

■ **運動部** El Bolos (ボウリング) / Et's (バスケットボール) / Get's (サッカー) / Let's Met's (野球) / Vit'z (ダブルダッチ) / 合気道部 / アイスホッケー部 / 弓道部(医学部) / 弓道部(保健学科) / 剣道部(医学部) / 硬式庭球部(医学部) / ゴルフ部(医学部) / サッカー部(医学部) / 柔道部 / 準硬式野球部(医学部) / 杖道部 / 水泳部 / スキー部(医学部) / ソフトテニス部(医学部) / 卓球部(医学部) / バスケットボール部(医学部) / バドミントン部(医学部) / バレーボール部(医学部) / フットサルサークル(医学部) / ラグビー部(医学部) / 陸上部(医学部) / ワンダーフォーゲル部

■ **文化部** AAA☆Kids (ボランティア) / ELMO (グループ体験学習) / e∞gg (自主ゼミ) / Flow Orchestra / Fore-Bridge Orchestra (FBO) / FORS (国際医療ボランティアの会) / Guit's (アコースティックギター) / LEADS (ボランティア) / MD-PhD勉強会(ド学連) / origin (折紙研究会) / Pico (合唱) / Voice Cream (アカベラ) / 医学部★ダンスサークル(M★DC) / 囲碁将棋部 / 映画研究会 / エレクトーン部 / ぐんまYMCA (ボランティア) / 軽音楽部(医学部) / 写真部(医学部) / でんでんむし(医学部、手話) / 天文部 / 東洋医学研究会 / ピアノ部 / 美術愛好会 / ビリヤード部 / ボードゲーム倶楽部 / マンドリンソサエティ / モダンジャズ研究会(医学部) / 野草を食べる会 / 夢のわたらせないうろ号(ボランティア)

COMMITTEE 学友会

学友会は、医学科及び保健学科の全学生により構成される組織です。年に2回「教職員との懇談会」を開催し、大学生活をより良いものとしていくため、大学施設に関すること、授業・カリキュラムに関すること等について意見交換を行っています。その他、新入生への学生生活に関するアドバイス、部活・サークルのとりまとめ等も行っています。

COMMITTEE 医学祭 実行委員会

2年に1度昭和キャンパスで開催される群馬大学医学祭は、学年・学科を超えた交流や大学周辺地域の方々との交流を目的とし、医学部ならではの様々なイベントが企画されます。

群馬大学入学者受入方針

1. 大学において、教養と専門知識を習得するために必要な基礎学力とコミュニケーション能力を持つ人
2. 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持つ人
3. 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む人
4. 高い志と豊かな発想力を持ち、未来を切り開く夢と情熱を持つ人
5. 地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持つ人

School of Medicine

医学科教育ポリシー

■ 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

—このような人を求めています—

- (1) 医師としての資質、特に医師としてふさわしい人格と倫理性、コミュニケーション能力、人間に対する豊かな感受性と奉仕の精神を備えている人
- (2) 本学科の教育内容を理解するために必要な総合的基礎学力を十分に備えている人
- (3) 医学研究、医学教育、医療行政、社会貢献活動を指向する人
- (4) 地域医療に貢献することへの志と強い信念を持っている人

■ 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

—このような教育を行います—

- (1) 医師としての倫理観・責任感及びチームのリーダーとしてふさわしい人格を身に付けさせる教育
- (2) 人体の構造と機能、ヒトと環境や微生物とのかかわり、薬物の作用機構など、医学の基礎を学ばせる教育
- (3) 心身の異常及びその原因・病態並びに予防・診断・治療など、医師や医学研究者として必要な知識を修得させる教育
- (4) 問題解決能力やリサーチマインドを涵養するとともに、高度な臨床・研究技能を修得させる教育

■ 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

—このような人材を育てます—

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した、次のような者に学士の学位を授与します。

- (1) 高い倫理観と責任感を有し、医学・医療チームのリーダーとして信頼される人格を身に付けた者
- (2) 医師、医学研究者、医学教育者又は医療行政担当者となるために必要な知識を身に付けるとともに、新たな課題に対応できる論理的思考力を修得した者
- (3) 広い医学知識に裏打ちされた高い臨床・研究技能を修得した者

群馬大学のモットーは「Act Locally, Think Globally(地域に根ざし、地球規模で考える)」です。この理念に共感し、次のような能力と意欲を持つ学生を求めています。

School of Health Science

保健学科教育ポリシー

■ 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

—このような人を求めています—

- (1) 本学科での学習を通して科学的な思考力と幅広い知識を培い、豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重できる人
- (2) 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持つ人
- (3) 看護師・保健師・助産師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療の担い手となることを望む人
- (4) 医療技術の学問の進歩に関心を有し、その学習や発展に向けた熱意と行動力を持つ人
- (5) チーム医療等の保健医療の現場において、多くの人々とコミュニケーションが取れる人
- (6) 国内外の場において多様な人々とともに学び助け合い、地域や国際社会で活動できる人

■ 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

—このような教育を行います—

- (1) 全人的医療の担い手としての人間性の涵養と、専攻分野に必要な基礎力の育成を図る教育
- (2) 専門教育では基礎から臨床に亘る階層的知識の積み上げを図るとともに、先端の保健医療の学習にも配慮する教育
- (3) 保健医療の担い手としての主体的思考・行動力と豊かな感性を持つ人材育成を図る教育
- (4) チーム医療の担い手としての意識と、そこで必要な能力の育成を図る教育
- (5) グローバル化した保健医療の諸課題に対応できる国際的視野を持つ人材育成を図る教育

■ 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

—このような人材を育てます—

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した、次のような者に学士の学位を授与します。

- (1) 保健医療の専門職業人となるために必要な知識と技術を備え、人間の尊厳を尊ぶ心を持つ者
- (2) 保健医療の諸課題に対し、多面的視点からの柔軟な思考、的確な判断と対応ができる者
- (3) チーム医療を担う自覚を有し、関係する人々との相互理解と円滑な協働関係が築ける者
- (4) 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させてゆく意欲と自己開発力を持つ者

オープンキャンパス

Open Campus

昭和キャンパス

■ 対象：主に高校2・3年生 ※高校1年生も可

開催日

7月26日(火) 医学科

8月10日(水) 保健学科

荒牧キャンパス

■ 対象：主に高校1・2年生 ※中学生も可

開催日

7月30日(土) 医学部(医学科・保健学科)・理工学部

7月31日(日) 教育学部・社会情報学部

※詳細やお申込みは、群馬大学ホームページ <http://www.gunma-u.ac.jp/> をご確認ください。

① 群馬大学総合情報メディアセンター図書館部門 医学図書館



医学図書館では、国内外の医学・医療専門書13万冊と3600タイトルの学術雑誌を所蔵し、6700タイトル以上の電子ジャーナルを利用できます。



ラーニングcommons
グループで協同学習するためのコミュニケーションエリアです。可動式テーブルとホワイトボードを組み合わせて、話し合いながら自習できます。



パソコンコーナー/セミナー室
PubMed、医中誌 Web などの医学文献データベースを利用し、国内外の医学情報を検索できます。また、OPAC（図書館所蔵目録データベース）を利用し、館内の所蔵情報を調べることができます。



閲覧室
閉館後も24時間利用できるサービスを提供しています。いつでも必要ときに資料を見ることが出来ます。閲覧席は250席余となっています。



ライブラリー「患者さんのこころ」
「良医養成のための体験的・実践的専門前教育」を支援するため、開病記・介護記・ホスピス・医療事故・医療倫理関連図書を取書しています。

② 生体調節研究所



ホルモンをはじめとする生体調節系の制御機構解明を目指す研究所です。その異常による疾患、特に糖尿病、動脈硬化などの生活習慣病の病態の解明を目指しています。



研究室
「生体調節シグナルの統合的研究」のテーマで「文部科学省グローバルCOEプログラム・生命科学分野」において研究拠点として選出され、医学系研究科大学院とともに研究を推進しています。

③ 重粒子線医学センター



重粒子線によるがん治療を行っています。

④ 生体情報ゲノムリソースセンター



遺伝子工学の中心である組換えDNAの実験・研究技術の普及と、専門研究者の教育・養成などを行う学内共同利用施設です。

⑤ 刀城会館



医学部同窓会（刀城クラブ）の募金により建設された多目的施設です。緑にかこまれたキャンパスの南西にあり、学会、講演会、研修会、セミナー、入学・卒業行事などに利用されています。

⑥ RI研究棟



放射性同位元素を利用して、ごく微量の血清中ホルモンを測定するラジオイムノアッセイ法などを行う施設です。

⑦ 医学科・大学院医学系研究科



基礎医学棟
解剖学、病理学、法医学など、基礎医学の研究・教育を担当する教員の研究室があり、医学の基礎研究が行われています。隣接して基礎医学を学ぶ教室や実習室があります。



臨床研究棟
内科学、外科学などをはじめとする臨床医学を担当する教員の研究室があります。附属病院での診療と並行して臨床分野での研究が行われています。



⑧ 保健学科



保健学科中央棟・西棟

理学・作業療法学専攻の施設・教員研究室、大講義室などが配置されています。



保健学科・新棟

看護学専攻の施設・教員研究室が配置されています。また、ミレニアムホール、中講義室・大学院講義室などが配置されています。



共用施設棟

検査技術科学専攻の施設・教員研究室、医療基礎学の教員研究室、一部理学療法学専攻の施設及び教員研究室、さらに事務部が配置されています。また、医学科関連の施設も配置されています。



ミレニアムホール

21世紀のスタートに合わせて建設されたことから、有為な医療人を輩出する意義を込めて命名されました。講義・セミナー・講演などに使われています。



臨床生体機能実習室

専門科目分野の一つである、エコー、肺気量測定装置、心電計など画像診断学分野の実習が行われます。



⑨ 生協



カフェテリア

一日の大半を大学キャンパスで過ごす学生生活。不規則になりがちな食生活から寛ぎの時間も生協がバックアップ。



食堂

何と言っても「安い」「美味しい」「早い」が生協食堂のセールスポイント。もちろん栄養計算はばっちり。



購買部

日常雑貨、文房具、そして専門書まで購買部には何かとお世話になります。

⑩ 黒梅ホール



黒梅恭芳群馬大学名誉教授の名を冠した黒梅ホールは、医学科学生の学習環境を整備するために平成25年2月に新設されました。主に6年生の自習室として利用されています。

⑪ ゆめのご保育園



一般幼児と病児が対象で、本学教職員の利用を主としています。

⑫ 石井ホール



石井英男群馬大学名誉教授の名を冠した石井ホールは、医学部キャンパス内の質の高い交流・学習空間の集合体として計画され、コミュニケーション、学習、リラクゼーションの場となっています。

⑬ 群馬大学医学部附属病院



群馬大学医学部附属病院は、「患者さん中心の医療を推進する」という基本理念の基に、医療を受けられる皆様の権利を尊重しながら、最高最良の医療を提供することを目指しています。



受付ロビー

毎日多くの患者さんが病院には訪れます。受付から診療、薬剤処方、精算まで一連の医療活動を合理的なシステムが支えています。



薬剤耐性菌実験施設

本邦で唯一の薬剤耐性菌に関する専門的研究施設です。社会的に大きな問題になっている細菌が薬剤に対して耐性を獲得するしくみを遺伝学的、分子生物学的に研究しています。



プロジェクト棟

大学外組織との共同研究をはじめとする様々な医学領域の研究プロジェクトを行う建物です。



実習棟顕微鏡実習室

実習棟では、顕微鏡を使った実習などをはじめとする基礎医学の様々な実習が、最新の設備を使って行われています。



診療室

病気との闘いは患者さんと医療従事者との共同活動です。徹底したインフォームドコンセントに基づいて計画的な医療を進めています。



手術室

不幸にも外科的な処置が必要になる患者さんも数多くいます。附属病院で最新の技術と機器を駆使して多くの実績を築いてきました。

Q 勉学環境で知りたいことは

チューター制度とはどのようなものですか？

A 【医】【保】：群馬大学医学部では、入学と同時に学生一人ひとりに対して指導教員(チューター)を割り当てています。生活上での相談、学業や進路などの相談はもとより、学問への志や医療人としての心構えなど自由に聞くことができます。

男子学生と女子学生の割合はどの程度でしょうか？

A 【医】【保】：学年によって多少の違いはありますが、医学科は男女比7：3、保健学科看護学専攻は1：9、検査技術科学専攻は2：8、理学療法学専攻は5：5、作業療法学専攻は2：8です。

入学料・授業料免除、奨学金制度について教えてください。

A 【医】【保】：学業成績が優秀であり、経済的な理由で学業の継続が困難な学生のために、一定の基準を満たしている場合、入学料・授業料免除制度があります。また、日本学生支援機構等の奨学金を取り扱っています。詳細は、群馬大学ホームページの「受験生のみなさまへ」(<http://www.gunma-u.ac.jp/>)をご覧ください。

サークルやアルバイトと学業の両立はできますか？

A 【医】【保】：所属するサークルやアルバイトの職種等によってかなり左右されると思われませんが、きちんとした自己管理と計画性を持っていれば、学業と両立させることは大抵の場合可能だと思われます。現在、多くの先輩がサークルやアルバイトと学業を両立させて医学部で学んでいます。

実家が遠いため1人暮らしをすることになるのですが。

A 【医】【保】：1人暮らしをしている学生の大半は昭和キャンパス周辺にアパートを借りています。群馬大学生協同組合(<http://www.univcoop.jp/gundai/>)で紹介している物件をご覧いただくと様子が分かりますが、都心に比べると家賃は安めです。キャンパス周辺にはスーパーや飲食店が多く、生活を送るうえで非常に便利な環境といえます。

研修施設はありますか？

A 【医】【保】：群馬のリゾート地として知られる北軽井沢と草津にあります。「北軽井沢研修所」は、元京都大学名誉教授 田辺元氏から寄贈された別荘を、5月上旬から10月中旬まで開所。「草津セミナーハウス」は、関東甲信越地区の国立大学が共同利用する合宿研修施設です。



北軽井沢研修所



草津セミナーハウス

Q 将来を見据えた注目の資格について

看護学専攻では、看護師の他に保健師と助産師両方の資格を取得できますか。

A 【保】：保健師コースと助産師コースの両方を履修することはできません。選抜試験を受け、どちらか一方を履修することになります。また、編入学生は、保健師・助産師コースを履修することはできません。

保健師コースについて教えてください。

A 【保】：保健師は、乳幼児から高齢者まですべての人々を対象に、保健所や市町村保健センター、企業などの場において、健康教育や健康相談、健康づくり環境整備などの活動を行い、人々の健康の保持・増進を支援する国家資格です。

看護学専攻にこのコースがあり、3年次終了時に所定の科目の成績及び選考試験の成績を評価して、コース履修者(40名)を選抜します。コース履修者は、4年次にさらに保健師国家試験受験資格に必要なカリキュラムを履修します。

助産師コースについて教えてください。

A 【保】：助産師は、女性の妊娠、出産、産褥の各期を通じて、サポート、ケア及び助言を行い、助産師の責任において出産を円滑に進め、新生児及び乳児のケアを提供するために、女性とパートナーシップを持って活動していく国家資格です。

看護学専攻にこのコースがあり、3年次終了時に所定の科目の成績及び選考試験の成績を評価して、コース履修者(8名)を選抜します。コース履修者は、4年次にさらに助産師国家試験受験資格に必要なカリキュラムを履修します。

養護教諭の免許が取得できるそうですが。

A 【保】：保健師国家試験に合格し保健師免許を取得すると、教育職員免許法に定める所定の単位を大学で修得している場合には、申請するだけで養護教諭(2種)を取得することができます。

細胞検査士コースについて教えてください。

A 【保】：細胞検査士は、人の身体の細胞を顕微鏡下で観察して、それが正常な細胞なのか、あるいは悪性の細胞なのかなどを調べます。この資格は、国家試験ではなく、学会の認定試験に合格すると得られます。その認定試験の受験資格を得られるコースが設置されているのは、国立大学法人では群馬大学、弘前大学、山口大学の3校だけです。

検査技術科学専攻にこのコースがあり、3年次になってから選択することができますが、人数枠(毎年5名程度)があるため、履修者は選抜試験で決めます。

Q その他

理学療法士と作業療法士の違いが分かりにくいのですが。

A 【保】：理学療法士とは、治療体操や運動、マッサージ・電気刺激・温熱などの物理的手段を用いて、運動機能の回復を目的とした治療を行う人のことです。病気やケガにより、日常生活に支障を来した方々に対して、起き上がり、立ち上がり、歩行などの基本的な動作能力の回復を図る、身体的なりハビリテーションに携わります。理学療法士の対象となる方は、新生児から高齢者、プロスポーツ選手などと幅広く、多方面での活躍が期待されます。

作業療法士とは、日常生活で行われる生活行為、家事、遊び、仕事などを治療手段として用い、障害を持つ人々や高齢者が身体や心の機能を回復させ、社会生活に参加することを支援します。大学では多岐にわたる活動の治療的な応用を学びます。最近では特別支援教育、介護予防、マネジメントの分野で注目され活躍の場が広がってきています。当専攻では作業活動の効果の研究に積極的に取り組んでいます。

Q 先輩たちの進路は？

国家試験の合格状況を教えてください。

A 【医】【保】：過去3年間の合格状況は以下のとおりです。



■ 医師国家試験合格率推移

	群馬大学 (%)	全国 (%)
H28	91.2	91.5
H27	92.1	91.2
H26	89.1	90.6

■ 医師国家試験受験者数と合格者数推移

	受験者数	合格者数
H28	113	103
H27	126	116
H26	110	98



	保健師 (%)		助産師 (%)		看護師 (%)		臨床検査技師 (%)		理学療法士 (%)		作業療法士 (%)	
	群馬大学	全国	群馬大学	全国	群馬大学	全国	群馬大学	全国	群馬大学	全国	群馬大学	全国
H28	97.8	89.8	100.0	99.8	98.8	89.4	92.9	76.4	85.2	74.1	100.0	87.6
H27	100.0	99.4	100.0	99.9	97.4	90.0	97.7	82.1	81.8	82.7	89.5	77.5
H26	95.4	86.5	100.0	96.9	98.8	89.6	95.5	81.2	79.2	83.7	95.2	86.6

卒業後の進路について教えてください。

A 【医】：医師国家試験に合格した人は、卒業後の2年間は大学病院や教育指定病院で臨床研修医として専門に偏らずに幅広く研修し、その後、大学病院、一般市中病院、診療所、各種医療センターなどで専門領域のトレーニングを受けます。

なお、群馬大学の研修医になると、大学病院と市中病院を利用し、それぞれの長所を十分に生かし、各人の希望に沿った研修が可能です。また、大学病院では2年間の初期臨床研修修了後は、シニアレジデント制度を設けており、初期・後期研修の連続性を考慮した研修システムを構築しています。

A 【保】：保健学科卒業後、多くの学生は下記のように県内外の医療関連施設等で第一線の専門職として働いています。

● 卒業後の進路〈平成27年度〉

■ 看護学専攻

[進路概要]卒業数83名



【就職先】足利赤十字病院、伊勢崎市民病院、イムス太田中央総合病院、太田記念病院、関東労災病院、がん研有明病院、杏林大学医学部付属病院、桐生厚生総合病院、群馬県、群馬大学医学部附属病院、慶應義塾大学病院、公立富岡総合病院、国際親善総合病院、国立国際医療センター、小諸厚生総合病院、埼玉医科大学総合医療センター、さいたま市、佐久総合病院、自治医科大学附属病院、渋川医療センター、渋川市、順天堂大学医学部附属順天堂医院、昭和大学江東豊洲病院、聖路加国際病院、高崎総合医療センター、高崎中央病院、筑波大学附属病院、東海大学医学部付属病院、東京大学医学部附属病院、東京都立小児総合医療センター、虎の門病院、日本医科大学付属病院、日高病院、本庄総合病院、前橋市、前橋済生会病院、前橋赤十字病院、真木病院、山梨大学医学部附属病院

■ 理学療法学専攻

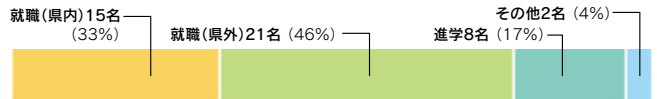
[進路概要]卒業数24名



【就職先】群馬県立小児医療センター、群馬県立心臓血管センター、公立藤岡総合病院、鶴谷病院、富山県リハビリテーション病院・こども支援センター、新潟中央病院、初台リハビリテーション病院、榛名荘病院、東前橋整形外科、日高病院、藤沢湘南台病院、本庄総合病院、みどり病院、森の里病院

■ 検査技術科学専攻

[進路概要]卒業数46名



【就職先】秋田病理組織細胞診研究センター、板橋中央総合病院、医療システム研究所、医療生協さいたま、岩手県、(株)LSIメディエンス、黒沢病院附属ヘルスパーククリニック、群馬県、桐生厚生総合病院、群馬大学医学部附属病院、公立富岡総合病院、埼玉県厚生農業協同組合連合会、埼玉石心会病院、佐渡市立両津病院、慈泉会相澤病院、昭和メディカルサイエンス、しらかわ診療所、聖路加国際病院、善衆会病院、高崎地域医療センター、高瀬クリニック、館林厚生病院、帝京大学医学部附属病院、東京北医療センター、東北大学病院、栃木県、獨協医科大学病院、利根沼田消防本部、日本医科大学付属病院、PL東京健康管理センター、前橋赤十字病院、宮城県対がん協会、山形県

■ 作業療法学専攻

[進路概要]卒業数20名



【就職先】厩橋病院、群馬整肢療護園、群馬中央総合病院、群馬県立精神医療センター、公立藤岡総合病院、済生会新潟第二病院、サンビエール病院、善衆会病院、長野県立こども病院、新潟リハビリテーション病院、原宿リハビリテーション病院、博仁会第一病院、はんなさわらび療育園、日高病院、前橋協立病院、美原記念病院、リハビリテーション花の舎病院、わかば病院

■ 受験準備・入学試験

Q. 過去問題の入手方法は？

▶ 医学科・保健学科とも過去の試験問題を公開しています。
 請求方法等、詳細については、
 ・医学科：医学科ホームページ(<http://www.med.gunma-u.ac.jp/>)
 ・保健学科：保健学科ホームページ(<http://www.health.gunma-u.ac.jp/>)
 をご確認ください。

Q. キャンパス見学は？

▶ 土日・祝祭日以外は原則的に見学可能ですが、必ず事前に学務課入学試験係へ電話等でご確認ください。見学する場合は、学務課入学試験係へお越しください。資料のお渡しや、ご質問にお答えします。
 なお、例年実施しているオープンキャンパスに参加していただくと、本学教員や在学生の話を聞くことができます。
 オープンキャンパスについては、31頁をご参照ください。

Q. 授業見学の申し込み方法は？

▶ 医学部保健学科では、高校生が自分の将来を考え、進路決定の際の参考のために、年間を通じて授業・実習の一部を見学できる制度があります。見学を希望する方は、授業見学申込書を学務課入学試験係まで送付してください。授業科目一覧、授業見学申込書は下記のURLからダウンロード可能です。
<http://www.health.gunma-u.ac.jp/admissions/med/inspection.html>

● キャンパス・授業見学連絡先

群馬大学昭和地区事務部学務課入学試験係
 〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22
 TEL：027-220-8910 (医学科) 027-220-8909 (保健学科)

Q. 出願するにあたり年齢制限はありますか？

▶ 医学科・保健学科とも年齢制限はありません。いずれの入学試験においても年齢はもちろん、性別、出身地、出身学校等の区別なく、全く同じ条件のもとで選抜を行っています。

Q. 募集要項の発表時期はいつですか？

募集要項の種別	発表時期(予定)	備考
学生募集要項(一般入試)	9月中旬	入学願書付
推薦入試学生募集要項		入学願書付
帰国生・社会人入試学生募集要項		入学願書付
私費外国人留学生入試学生募集要項		ホームページのみ

請求・照会先 群馬大学学務部学生受入課入学試験係
 〒371-8510 前橋市荒牧町四丁目2番地
 TEL：027-220-7150



■ 学生生活

Q. 学生生活支援は？

- ▶ **【学生教育研究災害傷害保険】**
 学生が正課中、学校主催行事中、学内での休憩中または課外活動中において、不慮の災害事故により傷害を受けた場合の補償救済制度です。
- ▶ **【生活協同組合】**
 学生及び教職員の大多数が組合員となって組織・運営されている生活協同組合があります。書籍・日常生活用品を取り扱う購買部や、食堂、喫茶などを運営しています。また、下宿・アパートについて学生生活に適した部屋を紹介しています。
- ▶ **【学生寮】**
 本学には、前橋地区に養心寮(収容人員：男子74名・女子62名、全室個室)があります。経費は、寄宿料が月額4,300円で、他に自治会費(3,000円/半期)、光熱水費(約6,000円/月)の実費が必要です。
- ▶ **【国際学生交換交流】**
 医学部同窓会からの援助により、毎年3～4名の学生を、姉妹校提携しているインドネシア共和国バジャジャラン大学、タイ国立チェンマイ大学と相互に訪問するプログラムがあります。
 姉妹校の提携は、この他にアメリカ合衆国のシアトルパシフィック大学、ワシントン大学、ニカラグアの国立自治大学マナグア校、中国の大連医科大学、南開大学生命科学学院、カナダのオタワ大学、モンゴルのモンゴル国立健康科学大学と行っています。

■ 受験準備・入学試験

Q. 学費は？

▶ 入学時及び在学中に授業料の改定が行われた場合は、新授業料を適用します。毎年2期(前期：4月、後期：10月)に分けて徴収します。

入 学 料	282,000円
授 業 料	535,800円(年額)

Q. その他必要経費は？

▶ **■ 医学科**

入学時に必要な経費(予定)	金額
刀城クラブ・同窓会終身会費	170,000円
後援会費(共用試験等受験料を含む)	100,000円(90,000円)
学生教育研究災害傷害保険料	4,800円(4,130円)
学研災付帯賠償責任保険料	3,000円(2,500円)
医療費補助会費	12,000円
荒牧クラブ・サークル協議会費	4,000円
学友会費	9,500円(8,000円)
テキスト代など	年間約150,000円程度

▶ **■ 保健学科**

入学時に必要な経費(予定)	金額
同窓会終身会費	40,000円
後援会費	40,000円(20,000円)
学生教育研究災害傷害保険料	3,370円(1,790円)
学研災付帯賠償責任保険料	2,000円(1,000円)
荒牧クラブ・サークル協議会費	4,000円
学友会費	4,000円(2,000円)
学外実習交通費	看護・検査技術科学専攻では一部の実習が学外で行われ、旅費の負担が必要です。 理学・作業療法学専攻では臨床実習の大半が学外施設で行われ、旅費や場合により宿泊費等の費用が必要となります。
テキスト代など	年間 50,000～70,000円程度(専攻による)

※かつこの金額は、編入学した場合

▶ **【予防接種】**
 医学部学生は、入学後、患者さん及び本人の感染防止のため、風疹・麻疹・流行性耳下腺炎・水痘・B型肝炎・結核等の抗体確認検査を実施し、陰性の項目については該当ワクチンを接種します。(検査及びワクチン接種費用は自費)

入学選抜

● 平成29年度医学部募集人員(予定)

医 学 科	特別入試				一般入試		計
	推薦	帰国生	社会人	私費外国人留学生	前期日程	後期日程	
医 学 科	35	若干名	—	若干名	73	—	108
保 健 学 科	看護学専攻	若干名	若干名	若干名	33	17	80
	検査技術科学専攻				22	9	40
	理学療法学専攻				8	4	20
	作業療法学専攻				8	4	20
小 計	55	若干名	若干名	若干名	71	34	160
計	90	若干名	若干名	若干名	144	34	268

※医学部医学科の推薦入試の募集人員35名には地域医療枠7名程度、前期日程の募集人員73名には地域医療枠9名程度を含みます。

● 選抜方法

医 学 科	特別入試				一般入試	
	推薦	帰国生	社会人	私費外国人留学生	前期日程	後期日程
医 学 科	●面接 ●小論文 ●出願書類 (調査書・推薦書・適性資質調査書等)	●学力検査(数学・理科) ●面接 ●小論文 ●出願書類	—	●日本留学試験 ●学力検査(数学・理科) ●面接 ●小論文 ●出願書類	●大学入試センター試験 ●学力検査(数学・理科) ●面接 ●小論文 ●調査書等	—
保 健 学 科	●面接 ●小論文Ⅰ(英語による出題) 小論文Ⅱ(文系の出題) 小論文Ⅲ(理系の出題) ●出願書類 (調査書・推薦書)	●面接 ●小論文Ⅰ(英語による出題) 小論文Ⅱ(文系の出題) 小論文Ⅲ(理系の出題) ●出願書類	●面接 ●小論文Ⅰ(英語による出題) 小論文Ⅱ(文系の出題) 小論文Ⅲ(理系の出題) ●出願書類	●日本留学試験 ●面接 ●小論文Ⅰ・小論文Ⅱ ●出願書類	●大学入試センター試験 ●小論文Ⅰ・小論文Ⅱ ●調査書	●大学入試センター試験 ●小論文Ⅰ・小論文Ⅱ ●調査書

※医学部医学科では、前期日程については志願者が約3倍を超えた場合にのみ2段階選抜を実施します。

※医学部保健学科(前期日程・後期日程)について、理学療法学専攻及び作業療法学専攻のどちらにも進学意欲を持つ志願者は、出願の際に第2志望専攻を指定できます。

● 平成28年度入学選抜実施状況

■ 医学科

	推薦	前期日程	帰国生	私費外国人留学生
募集人員	35	73	若干名	若干名
志願者数	116	333(219)	2	0
受験者数	116	204	2	0
合格者数	35	74	0	0
入学者数	35	73	0	0

※志願者数の()は、第1段階(第1次)選抜合格者数で、内数とする。

※合格者数には追加合格者を含みます。

■ 医学科第2年次編入学

	第2年次編入学
募集人員	15
志願者数	269
第1次試験合格者数	60
第2次試験合格者数	20
入学者数	15

※第2次試験合格者数には追加合格者を含みます。

■ 保健学科

	看護学専攻					検査技術科学専攻					理学療法学専攻					作業療法学専攻								
	推 薦	帰 国 生	社 会 人	前 期 日 程	後 期 日 程	私 費 外 国 人 留 学 生	推 薦	帰 国 生	社 会 人	前 期 日 程	後 期 日 程	私 費 外 国 人 留 学 生	推 薦	帰 国 生	社 会 人	前 期 日 程	後 期 日 程	私 費 外 国 人 留 学 生	推 薦	帰 国 生	社 会 人	前 期 日 程	後 期 日 程	私 費 外 国 人 留 学 生
募集人員	30	若干名	若干名	33	17	若干名	9	若干名	若干名	22	9	若干名	8	若干名	若干名	8	4	若干名	8	若干名	若干名	8	4	若干名
志願者数	63	0	0	106	133	0	53	0	0	117	115	1	47	0	2	30	28	0	18	0	0	19	21	0
受験者数	63	0	0	97	58	0	53	0	0	112	49	1	47	0	2	29	11	0	18	0	0	19	10	0
合格者数	30	0	0	37	19	0	10	0	0	24	17	0	10	0	0	10	4	0	8	0	0	8	5	0
入学者数	30	0	0	34	16	0	10	0	0	22	9	0	10	0	0	10	3	0	8	0	0	7	5	0

■ 保健学科第3年次編入学

	看護学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻
募集人員	10			
志願者数	4	11	0	1
受験者数	3	10	0	1
合格者数	1	5	0	1
入学者数	1	4	0	1



群馬大学医学部(医学科・保健学科)
群馬大学大学院医学系研究科
群馬大学大学院保健学研究科

(医学)〒371-8511

(保健学)〒371-8514

群馬県前橋市昭和町三丁目39番地22号

TEL.027-220-7111(代)

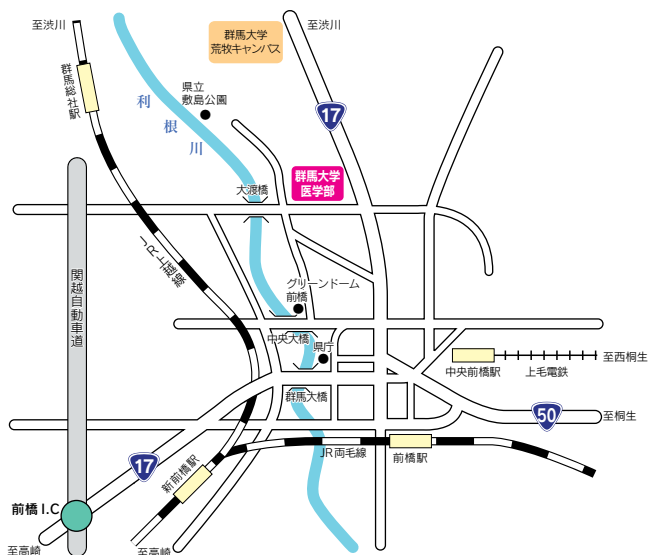
(医学)http://www.med.gunma-u.ac.jp/

(保健学)http://www.health.gunma-u.ac.jp/

■入学案内に関するお問い合わせ

TEL.027-220-8908・8909・8910

LINE、Twitterでも群馬大学の入試情報等を配信中!



- [前橋駅から] 渋川駅(小児医療センター)行バス乗車→群大病院入口下車 約13分 徒歩6分
- [前橋駅から] 群大病院行バス乗車→群大病院下車 約15分
- [新前橋駅から] 群大病院行バス乗車→群大病院下車 約23分
- [渋川駅から] 前橋駅行バス乗車→群大病院入口下車 約30分 徒歩6分



https://page.line.me/gunma_uni_ad



http://twitter.com/gunma_uni_ad